

第5章 関連文化財群

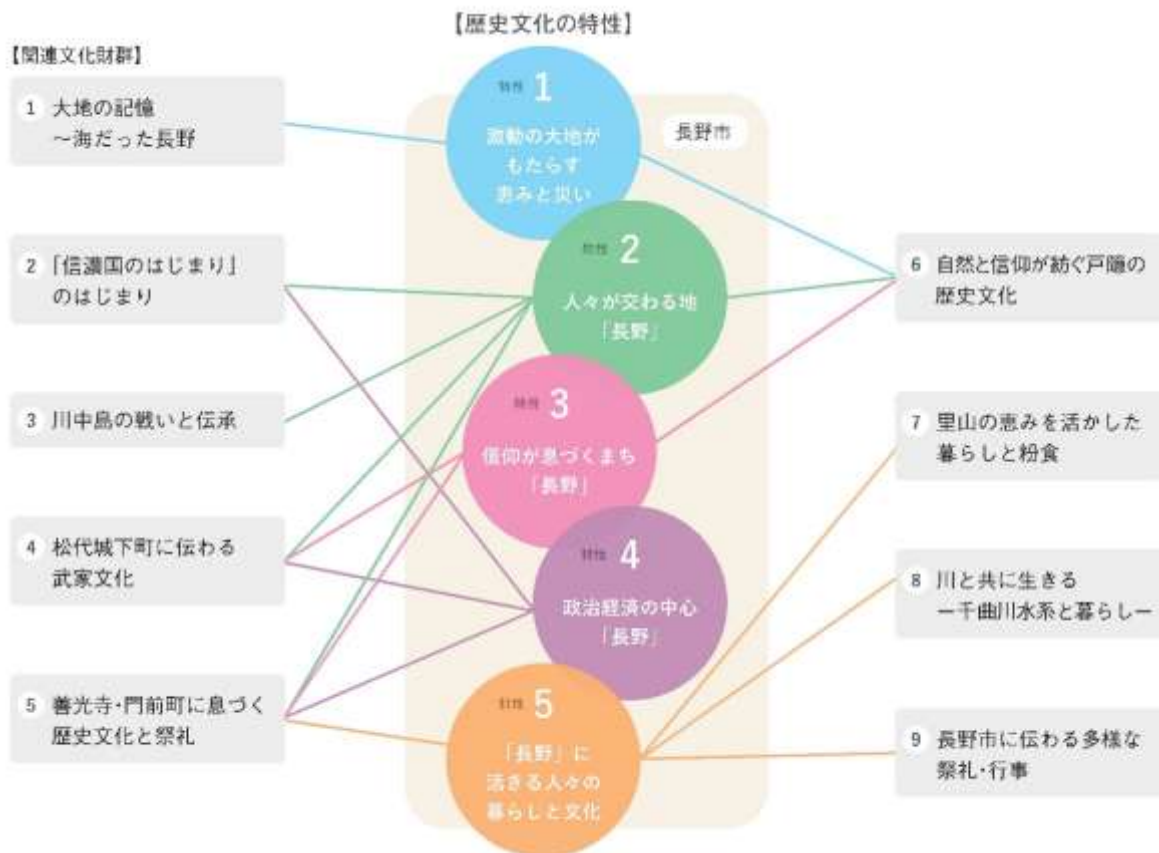
1 関連文化財群の考え方

関連文化財群とは、「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特性に基づいて一定のまとまりとして捉えたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となる。」（「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」文化庁 令和5（2023）年3月最終変更）とされている。

広域で多様な文化財を有する本市の歴史文化の特性を把握するためには、指定・未指定にとらわれず、共通の背景や文脈を持つ文化財をストーリーでまとめることで、俯瞰的な視点で歴史文化の特性をとらえることが可能になる。加えてストーリーをふまえた総合的な保存・活用に取り組むことで、市民や来訪者等に対して、歴史文化の理解促進や地域毎の魅力向上が期待される。

2 長野市の関連文化財群

前項の設定方針をふまえ、第3章でまとめた本市の五つの歴史文化の特性を基に、長野らしさを表す九つの関連文化財群を設定した。



1) 関連文化財群1 大地の記憶 海だった長野

ア 激しい地殻変動が作り出した特徴的な景観

長野市の周囲の山地はフォッサマグナ地域の海底に堆積した厚い地層でできている。これらの地層からは貝類や魚類、海生哺乳類などの化石が発見されており、海だったことがわかる。

これらの中には、大規模噴火の際に堆積した地層も見られる。東部山地では、約1,600万年前の海底で噴出した緑色凝灰岩類（グリーンタフ）が見られる。若穂の玄武岩質枕状溶岩が県天然記念物に指定されている。長野市西部では約700万年前



大柳の枕状溶岩

の流紋岩質の海底噴火でできた裾花凝灰岩層が盆地西縁部に露出する。500万年前にも安山岩質の海底火山の噴火があり、戸隠山や虫倉山、久米路峡などをつくる凝灰角礫岩類が堆積した。これらは、長野市が海底で何度も大規模な火山噴火をしてきたことを示す証拠である。これらの岩石は長野市内の各地域において石材として古くから利用されてきた。

堆積岩類が分布する地域も広く、犀川や裾花川沿いでは堆積岩類が褶曲して傾斜した地層が観察される。中でも鬼無里の奥裾花峡谷では、日影向斜軸部の観察や、リップルマーク、ポットホール、ハチノス状風化岩など地層堆積の現象、大地の隆起と水による浸食が生み出した各種の地質現象が見られ、県の名勝となっている。これらの海成の堆積岩類は、その後の隆起で褶曲しており、豪雨時や融雪期に地すべりによる被害をもたらす一方で、周囲に比べてなだらかな地形となり、農業も行いやすいために古くからの人が住みやすい場所でもあった。

約200万年前から長野の海は新潟県方面に退き、長野県北部は隆起を始め山地となっていく。約80万年前から、長野盆地周辺の山地で火山活動が激しくなり、斑尾、志賀高原、草津白根、四阿などの第四紀火山群が噴火した。飯縄山もその一つで、約40万年前から噴火を繰り返し成層火山として成長し、なだらかな山麓をつくり高原のリゾート地やスキー場として利用されている。松代の皆神山（35万年前）、若槻の髻山（25万年前）も溶岩ドームである。また、標高の高い多雪地域では氷河期に侵食が進み、地層が硬い部分では急峻な地形となり、戸隠山のように特徴的な景観をつくった。特徴的な山容をもつ飯縄山、戸隠山、皆神山などは山岳信仰の対象ともなった。

長野盆地西縁断層の動きによる盆地の沈降は、犀川や裾花川の扇状地を形成する原動力となっているとともに、近世以降における最大の被害地震として弘化4（1847）年の善光寺地震を起こした。長野盆地西縁に位置する善光寺や川中島などの観光地もこうした扇状地の上にある。また、犀川の扇状地は千曲川を東側へ移動させ、松代城が現在の場所に立地する背景ともなっている。また、扇状地は水が浸透しやすいので、鐘鑄堰をはじめとする旧流路を利用した用水路が各地で発達した。

イ 市内で見つかる海の生き物などの化石

長野市の西部山地では、約 1,000 万年から 200 万年前の海成層が表面に露出している。その地層からは、海洋生物の化石が多く見つかっており、古くは江戸時代中期に平賀源内が著した『博物図説』にも登場する。これらの化石から、長野が海だった時代の古環境を知ることができる。



シンシュウセミクジラ化石

信州新町周辺（長野市西南部）では 500 万年前ころの地層が分布し、セイウチやシンシュウセミクジラ（セミクジラ属の最古の種類）の化石等が発見されている。貝化石からは上部浅海帯から下部浅海帯（大陸棚より浅い）の古環境であったことがわかっている。

中条から戸隠地区にかけては、400 万年前から 250 万年前ころの地層が分布し、クジラやカイギュウなどの海生哺乳類化石のほかに、カキやホタテなど貝化石が産することから、長野市西部に海岸線が存在したことがわかる。中条や戸隠、鬼無里等で見つかったミエゾウ（シンシュウゾウ）は、中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドンゾウの一種である。この化石は、当時の日本がかつて大陸と陸続きであったことを示している。

ウ 関連文化財群設定のねらい

本計画期間では長野市の大地の生い立ちを特徴づける地質現象並びに古生物に関連する文化財群について取り上げ、長野盆地と周辺の山間地の地質的特徴についての普及啓発、またそれを示す記念物等文化財の保護に向けた取組を進めていく。

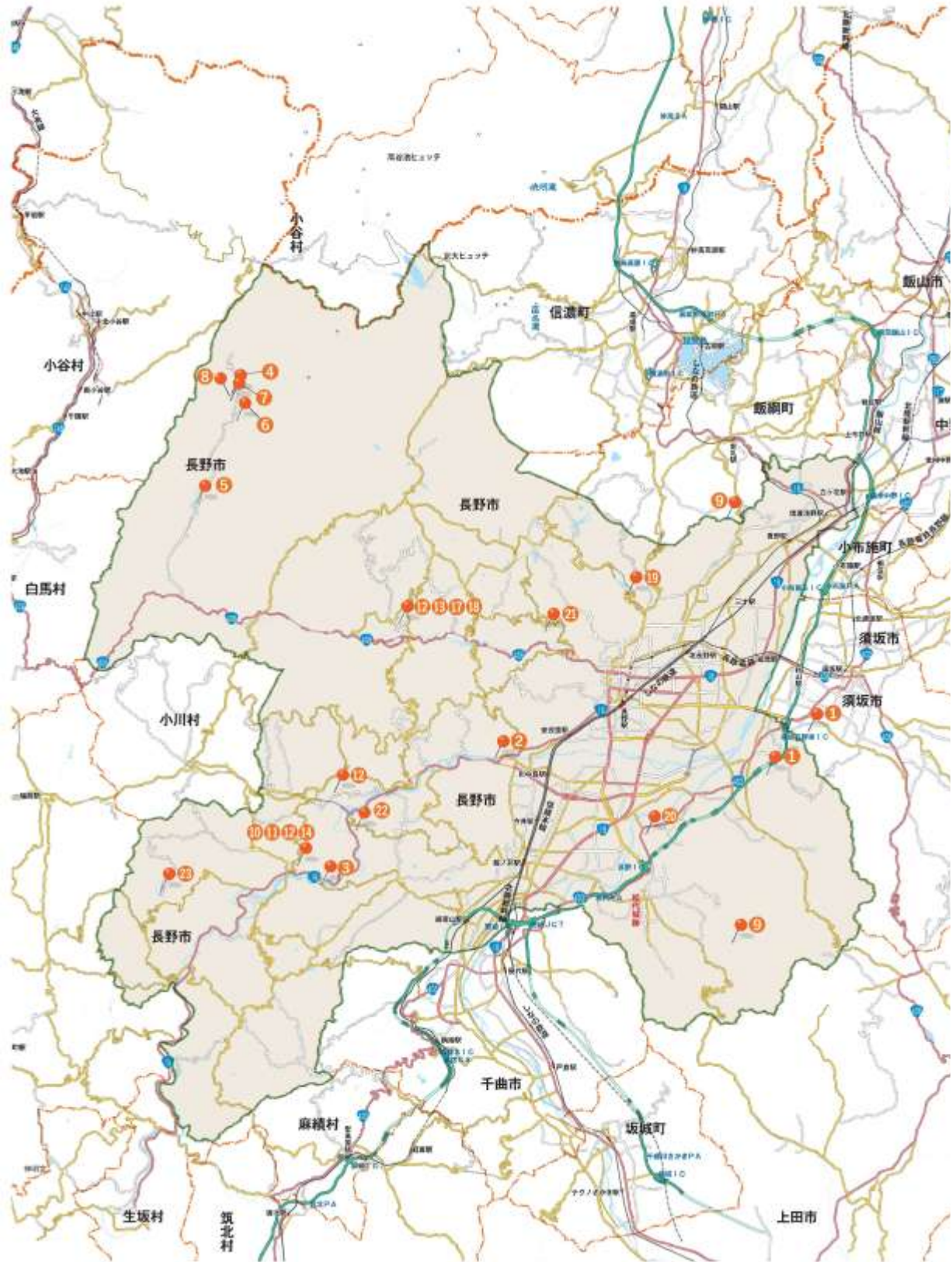
構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定等状況
1	大柳及び井上の枕状溶岩	フォッサマグナ地域に噴火した玄武岩質溶岩。海底に噴火したもので、枕状に積み重なったもの。約 1600 万年前のもの。	地質鉱物	県指定天然記念物
2	裾花凝灰岩	約 700 万年前の海底噴火でできた流紋岩質の凝灰岩類。長野盆地西縁断層によって隆起したため、盆地西縁に分布する。	地質鉱物	未指定
3	久米路峽	犀川流域に分布する硬い火砕岩類が露出しており狭窄部となっている。そのため、古来より橋が架けられてきた。	名勝	市指定天然記念物

4	奥裾花のケスタ地形	硬い地層と柔らかい地層が重なり、硬い地層面が差別浸食を受けて、地形面をつくった地形。	地質鉱物	市指定天然記念物
5	奥裾花峡谷	裾花川が侵食して作った渓谷で、全長約5 km、比高100 mの絶壁が続き、約300万年前の地層が観察できる。	名勝	県指定名勝
6	日影向斜の向斜軸	奥裾花渓谷の地層の傾斜が左右で異なる向斜構造（褶曲構造の谷型の部分）を観察することができる。	地質鉱物	市指定天然記念物
7	<small>れんこん</small> 漣痕（リップルマーク）	水の流れによって堆積岩の表面に形成される波形模様。千畳敷岩の表面で観察できる。	地質鉱物	市指定天然記念物
8	<small>せんじょうじきいわ</small> 千畳敷岩	日影層の硬い砂岩の表面が広く露出している。かつての海底面である。	地質鉱物	市指定天然記念物
9	皆神山・髻山（溶岩ドーム）	約30万年前に、粘性の高い溶岩が地下から押し出されてできた火山地形。	地質鉱物	未指定
10	菅沼の絶滅セイウチ化石	鮮新世に広く分布したオントケトウスという絶滅セイウチの仲間。	地質鉱物	県指定天然記念物
11	<small>やまほかり</small> 山穂刈のクジラ化石	ヒゲクジラの仲間で、新種のシンシュウセミクジラ。体長は約12m。	地質鉱物	県指定天然記念物
12	貝類化石（シガラミサルボウなど）	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約400万～300万年前のもの。	地質鉱物	未指定
13	ダイカイギュウ化石	絶滅したジュゴン一種。コンブ食で体長9mにも及んだ種類。戸隠・中条で産出。	地質鉱物	未指定
14	裏沢の絶滅セイウチ化石	鮮新世（約530～260万年前）に広く分布したオントケトウスという絶滅セイウチの仲間。	地質鉱物	県指定天然記念物
15	戸隠積沢の化石群	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約400万～300万年前のもの。	地質鉱物	市指定天然記念物
16	アズメ沢の化石群	10数枚の化石層が見られ、ホタテガイ類・イガイ類などを多く含む。	地質鉱物	市指定天然記念物

17	ホホジロザメ化石	大型の肉食性板鰓類で、戸隠で歯の化石が産出。暖流の流入を示すもの。	地質鉱物	未指定
18	戸隠川下のミエゾウ化石	中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドン(ゾウ)の一種。左右4本の歯が残る下顎化石。約300万年前のもの。中条でも頭骨の一部が産出。	地質鉱物	県指定天然記念物
19	浅川の ^{ゆせい} 油井	約1000万年前の海底に堆積した泥岩層に石油が貯留され、善光寺地震の際に噴出量が増え、明治時代から採掘された商業油田の始まり。油井とポンプが現地保存されている。	地質鉱物	未指定
20	柴石石切り場	安山岩質の火砕流堆積部物で、加工がしやすく、柴石として採石されている。	地質鉱物	未指定
21	^{むじなごろうやま} 貉郷路山石切り場	安山岩の貫入岩体。20数万年前のもので、周囲より硬いので岩山となっており、柱状節理が発達する。	地質鉱物	未指定
22	岩倉山の崩壊地と涌池	善光寺地震で、岩倉山が崩壊し犀川をせき止め、天然ダムを形成した。涌池もその際にできた凹地に水が湧出したもの。	地質鉱物	未指定
23	柳久保池	善光寺地震の際、大きな地すべりが谷をせき止めてできた池。	地質鉱物	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・構成文化財は、戸隠や信州新町など西山地域など現地で保存されているものと博物館で収蔵されているものがあるが、双方をつなげるような取組が不十分である。
- ・博物館の収蔵資料のなかには調査が不十分なため、その価値が定まっていないものが多くみられる。
- ・博物館や現地に存在する構成文化財は、市域の大地の歴史や過去の環境を知る上で重要な資料であるが人の目に触れる機会が少ないため、その価値は地元住民にさえあまり知られていない。

方針)

- ・現地で保存されている文化財をフィールドに出て見ることやその景観を見ることと、博物館に展示されている資料を見ることは相補的な関係にあるため、双方をつないで地域の自然の魅力を高める取組を行う。
- ・収蔵資料や野外の構成文化財の調査を進める。
- ・構成文化財の魅力を広く周知する取組を行う。
- ・構成文化財の価値を知る人を育て、その人が活動する場を設ける。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・野外観察会の実施	博	戸隠や信州新町など現地で見ることのできる地層等の観察会を実施する。	◎					R6～R13
2 ・構成文化財群の魅力発信事業の実施【新】	博	市域に点在する構成文化財（露頭・景観や収蔵品など）をつないで魅力を発信する。	◎		○	○	○	R6～R13
3 ・フィールドワークの実施	博	市域に所在する露頭などを対象に地質調査を行う。	◎		○	○		R6～R13
4 ・収蔵地質資料の調査研究と整理【新】	博	収蔵資料の調査研究による地質資料の再評価と整理を行う。	◎					R6～R13
5 ・博物館収蔵品のレプリカ作成	博	収蔵品を広く利活用するためレプリカを作成する。	◎					R6～R13
6 ・文化財を活用したグッズ開発の検討【新】	博	博物館収蔵の地質鉱物資料や露頭などを活用したグッズ開発を検討する。	◎		○		○	R6～R9
7 ・SNS等を活用した情報発信	博	戸隠、信州新町博物館のHPの受有	◎		○			R6～R13
8 ・収蔵品データベースの充実とHPのアクセシビリティの向上	博	収蔵品のデータベースへの登録を進め、多くの人々がアクセスしやすいようなHPを作成する。	◎		○	○		R6～R13
9 ・市民参加の推進	博	博物館収蔵資料の整理や調査を行うボランティアや現地見学会のガイドなどの市民参加を推進する。	◎		○	○		R6～R13
10 ・教職員への研修	博	野外観察会や、戸隠や信州新町博物館の学校利用を促進させるため、教職員に対し研修を行う。	◎		○			R6～R13
11 ・小中学校教育との連携推進事業	博	学校への講師派遣や、博物館施設等での見学受入れ、地質教材としての資料貸出などを行う。	◎		○			R6～R13

※博＝博物館

(2) 関連文化財群2 「信濃の国のはじまり」のはじまり

ア 箱清水式土器文化圏の成立と展開－文化圏「赤い土器のクニ」の成立と展開－

弥生時代に伝わった稲作は、石川条里遺跡（篠ノ井）、川田条里遺跡（若穂）など現在まで続く水田の原風景を形づくり、「箱清水式」と呼ばれる赤く塗った土器に象徴される独自の文化圏を出現させた。

朱塗りの器（壺・鉢・高杯）と櫛描文の器（甕）から構成される箱清水式土器は千曲川流域の広い範囲で用いられ、共通の器を使用する「広域生活圏」を示している。さらに、鉄や銅で造られた釧（ブレスレット）、管玉（ネックレス）、鹿角製の拵を備える短剣、丸い墓への単独埋葬（円形周溝墓）などの習俗も共通し、共通の器による「生活圏」とどまらない一大「文化圏」を成している。

一方、篠ノ井遺跡群や小島柳原遺跡群ではムラの周りに溝を巡らす「環濠集落」が確認され、集落間の格差や区画意識・排他性など権力の集中する基盤が現れ、社会的階層分化が進んだ、政治性を帯びた社会圏ともなっている。

このように、箱清水式土器の広がり示された圏域はさまざまな性格を兼ね備えていて、『魏志倭人伝』に記された「邪馬台国」時代の長野市域には「赤い土器のクニ」と称すべきクニが誕生していたことを物語っている。



箱清水式土器（国鉄貨物基地遺跡）

イ 「王」の登場－政治圏「シナノのクニ」の成立と展開－

弥生時代以降、後背湿地に広がった水田を臨む山上には、川柳將軍塚古墳・姫塚古墳（篠ノ井）、土口將軍塚古墳（松代）、和田東山古墳群（若穂）、大室18号墳（松代・若穂）とおおむろと前方後円墳が累代的・継続的に築造されている。

さらに、これらの前方後円墳には規模の格差があるうえ、大星山古墳群（若穂）、篠ノ井・高畑古墳群（篠ノ井）のような小型の円墳群も加わり、古墳時代前期（三世紀後半から四世紀）には



伝川柳將軍塚古墳出土遺物 左：鏡 中：琴柱形石製品と玉類 右：埴輪円筒棺

いくつかの集団による勢力圏が重層的に重複する政治・文化圏へ変移している。

なかでも、川柳将軍塚古墳（古墳時代前期後半）は、全長 93m と県内第 2 位の隔絶した規模の前方後円墳であるばかりでなく、お膝元の石川条里遺跡（高速道地点）では手工業生産の集中的生産が行われているなど、比類なき絶対的存在としての「王」の誕生を物語っている。

このように、弥生時代後期に誕生した「赤い土器のクニ」は倭王権（ヤマト王権）との繋がりを背景に、「王」を擁する「シナノのクニ」へと大きく変貌を遂げた。

ウ 馬事文化の到来と積石塚古墳文化—経済圏「シナノのクニ」の特徴—

「王」の存在を示す大型前方後円墳は土口将軍塚古墳（松代、五世紀中葉）を最後に長野市域で築造されなくなる。その後、長野市域では大室古墳群（松代）に代表される石を積み上げて墳丘を構築する「積石塚古墳」が多数みられるようになり、「王」の時代とは大きく様相が変わる。

この劇的な変化が生じたちょうどそのころ、朝鮮半島を通じて乗馬から飼育に至るまで馬に関わる文化総体（馬事文化）が日本列島に導入される。長野市域にも榎田遺跡（若穂）で生産された木製馬具などが示すように導入直後に、「シナノ」の中心となった下伊那地域と時期を違えず馬事文化がもたらされている。馬の利用は道路の整備や拡充を促進し、古くから使われていた「ウミのミチ」に加えて、「ヤマのミチ」の整備・

利用が本格化する。その結果、下伊那地域が倭王権（ヤマト王権）に対する窓口となり、長野市域を含む「シナノ」各地を統括する新しい政治・経済圏を成立させた。善光寺平で新たに展開する積石塚古墳文化は、馬をはじめとした各種手工業生産の担い手集団に関わっている可能性が高い。

ここに至って、北の善光寺平から南の伊那谷を含む令制信濃国の領域が明確となる。長野市域は積石塚古墳という南の下伊那地域とは異なる古墳文化の展開をみせて、経済圏の中核のひとつを、下伊那地域とはまったく異なった役割を負って担っていくこととなる。



積石塚古墳（大室 168 号墳）



木製馬具（壺鐙、榎田遺跡）『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』37（1999 年）より転載

エ 関連文化財群設定のねらい

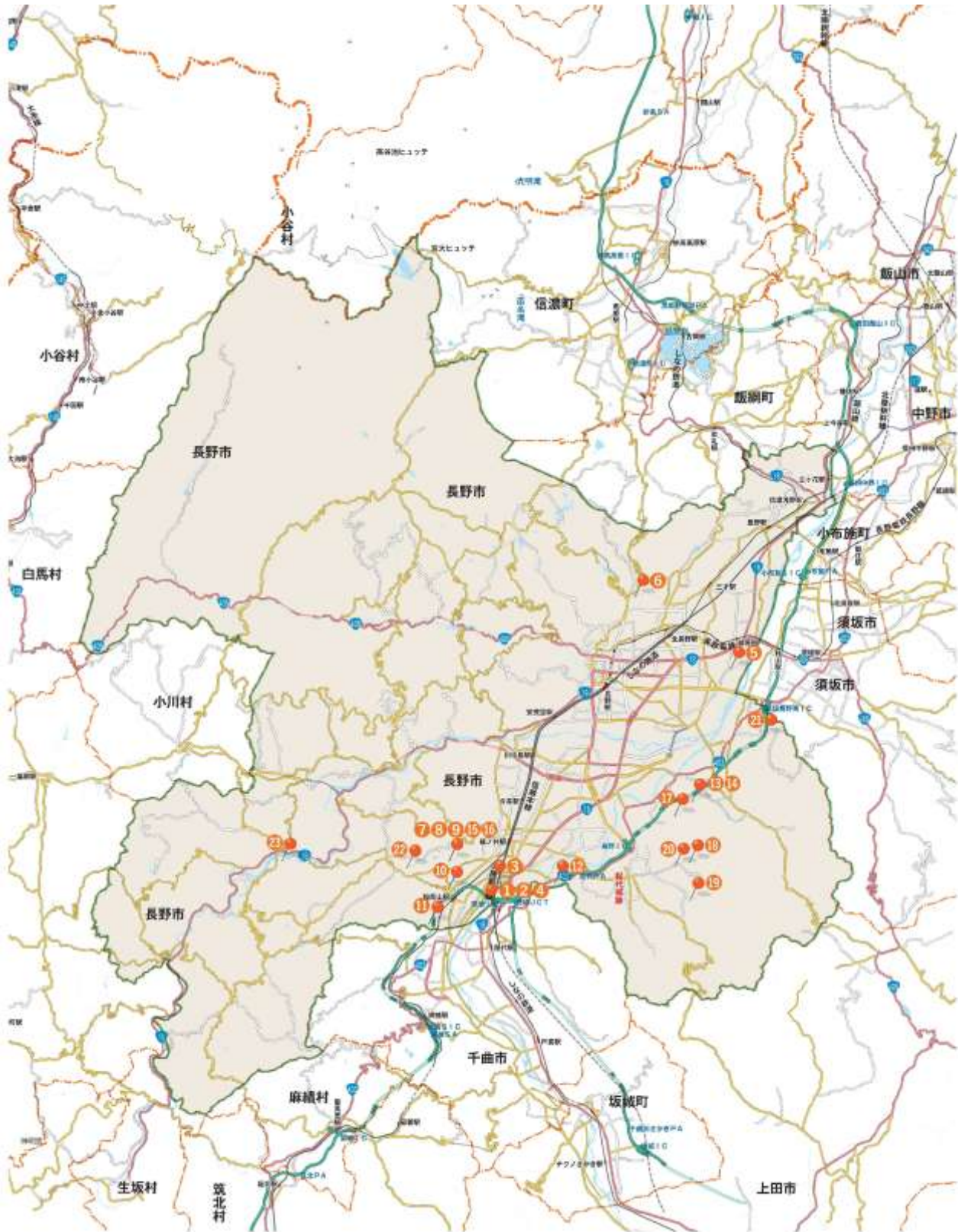
長野市域を中心とする善光寺平一帯には弥生時代から古墳時代かけての、「信濃国」成立へ向けた政治・経済圏の形成過程を知る上で重要な史跡や考古資料が集積しており、それらの調査や保存活用、情報発信を継続的に行うため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定区分
1	銅銚及び石製模造銚	篠ノ井塩崎の松節遺跡から出土した弥生時代の青銅製と石製の銚、赤い土器のクニの祭りの道具。	考古資料	市指定有形文化財
2	伊勢宮遺跡出土遺物	篠ノ井塩崎の伊勢宮遺跡から採集された遺物群。弥生時代石器群と遠賀川系土器・東海系条痕文土器を含み、稲作の伝来を伝える資料。	考古資料	市指定有形文化財
3	篠ノ井遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
4	塩崎遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
5	小島柳原遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
6	檀田遺跡出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
7	川柳将軍塚古墳・姫塚古墳	古墳時代前期後半に築造された全長 93mの前方後円墳、シナノの王墓。	遺跡	国指定史跡
8	伝川柳将軍塚古墳出土品	川柳将軍塚古墳の出土品。	考古資料	県宝
9	埴輪円筒棺	川柳将軍塚古墳の墳丘裾部から発掘された従属的埋葬棺。	考古資料	市指定有形文化財
10	中郷神社前方後円墳	篠ノ井塩崎地区に所在する全長 53mの前方後円墳。	遺跡	市指定史跡
11	越将軍塚古墳	篠ノ井塩崎地区に所在する直径 33mの大型円墳。	遺跡	市指定史跡
12	土口将軍塚古墳	古墳時代中期中葉に築造された全長 68mの前方後円墳、シナノの王墓。	遺跡	国指定史跡
13	和田東山古墳群	川田条里に面した尾根の上に築造された、前方後円墳 3 基、円墳 2 基から構成される古墳群。	遺跡	未指定
14	素環頭太刀及び内反太刀	若穂保科の片山古墳（積石塚古墳）から出土した二種の大刀で、長野盆地の初期積石塚古墳	考古資料	市指定有形文化財

		の副葬品。		
15	飯綱社古墳出土品 附 布制神社御神宝之図	長野盆地最古の馬具を含む飯綱社古墳の出土品。	考古資料	市指定有形文化財
16	飯綱社古墳	古墳時代中期中葉に築造された、篠ノ井塩崎地区に所在する一辺 15m程度の方墳。	遺跡	未指定
17	大室古墳群	総数 500 余基の東日本を代表する大古墳群。400 基余りの積石塚古墳を含み、積石塚古墳群としては日本最大。	遺跡	国指定史跡
18	菅間王塚古墳	古墳時代中期後半から後期前半に築造された、長野県最大規模の積石塚古墳。	遺跡	県指定史跡
19	桑根井空塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする古墳時代後期の積石塚古墳。	遺跡	県指定史跡
20	竹原笹塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする古墳時代後期の積石塚古墳。	遺跡	市指定史跡
21	榎田遺跡	古墳時代の集落遺跡で、出土した木製壺鐙は地方事例としては最古級。	遺跡	未指定
22	大塚古墳	信更地区に所在する前方後方墳。	遺跡	市指定史跡
23	武富佐古墳	信州新町に所在する、古墳時代中期中葉の円墳。	遺跡	市指定史跡

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・埋蔵文化財の把握は開発事業に因っている部分が大きく、開発事業がほとんどない山間部などでは範囲把握が十分でない。
- ・調査された遺跡や出土した考古資料について、半世紀近く史跡や有形文化財（考古資料）の市指定案件が出されていない
- ・記録保存に伴う発掘調査事業完了後、遺跡や出土品を歴史資料として活用するための調査・研究体制が整っていない。
- ・外部の専門人材等との連携を深めていく必要がある。
- ・国史跡大室古墳群については、規模が大きく未整備の古墳も多いため、長期間の整備事業が求められる。
- ・指定文化財の古墳等を維持管理する地元団体が高齢化し、日常管理が難しくなっている。
- ・遺跡の調査記録、出土品などを収蔵するスペースが限界に達しているため、新たなスペースを確保する必要がある。
- ・山間部に所在する史跡は大型バスなどの進入が困難な場合が多く、団体による利活用を促進するためのインフラの整備を進める必要がある。
- ・関連文化財群を構成する文化財については市民にも知られていないものが多い。

方針)

- ・開発事業によらない埋蔵文化財の分布調査が行えるような仕組みづくりを検討する。
- ・既存資料も含めて、遺跡や出土品を考古資料としてさらに活用するため、外部の専門人材と連携した調査・研究体制の確立を目指す。
- ・国史跡大室古墳群の管理及び整備のための長期的な計画を立てる。
- ・文化財保存のための環境整備と担い手の人材育成に加え、保存会に代わる新たな仕組みづくりを検討していく。
- ・文化財の保存施設の充実や史跡へのアクセスの向上に取り組む。
- ・関連文化財について広く周知するための施策を行うとともに、教材化等を通して学校教育でも利活用できるようにしていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間	
1	・埋蔵文化財分布調査	埋	埋蔵文化財包蔵地の範囲を確定するための調査を実施する。	◎		○	○		R6～R13
2	・市内遺跡確認調査事業	埋	開発事業によらない、遺跡確認のための試掘・確認調査を実施する。	◎		○	○		R6～R9
3	・資料の収集・整理・研究	埋	積石塚古墳文化に関わる資料の収集・整理・研究を行う。	◎		○	○		R6～R13
4	・指定等文化財候補の選定	埋・文	遺跡・考古資料から、市指定史跡・有形文化財となる候補を選定する。	◎		○	○		R6～R13
5	・史跡大室古墳群整備専門家会議	埋	大室古墳群の整備について学術的な点から意見をもらう会議を開催する。	○		○	◎		R6～R13
6	・大室古墳群管理事業	埋	大室古墳館の管理及び古墳群の環境整備を行う。	◎	○		○		R6～R13
7	・史跡大室古墳群保存整備事業	埋	未整備の古墳を中心に大室古墳群の保存整備を行う。	◎	○				R6～R13
8	・史跡大室古墳群保存管理計画の策定【新】	埋	大室古墳群の保存整備についての長期的な計画をたてる。	◎	○		○		R10～R13
9	・文化財保護への支援	文	補助金等の交付を通して、所有者の文化財保護活動の支援を行う。	◎	○				R6～R13

措置		担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
10	・地域の文化財の担い手育成	埋	地元の大室古墳群保存会の活動を支援するほか、より広い範囲での協力者を開拓する。	◎	○	○			R6～R13
11	・収蔵スペースの確保	埋・博	空き施設の有効活用や新規建設等により出土資料の収蔵スペースの確保に努める。	◎					R6～R13
12	・博物館収蔵庫改修・特別収蔵庫の設置の検討【新】	埋・博	発掘出土品のうち、温度・湿度管理が必要な文化財を専用に収蔵できるような施設の設置を検討する。	◎					R10～R13
13	・大室古墳群アクセス道路の整備	文	大室古墳群までの道が狭小で車のすれ違いもできない状況のため、見学者を乗せたバスが通れるような道路を整備する。	◎	○	○			R6～R9
14	・関連文化財群に関する普及啓発	埋	文化財総合ポータルサイトや印刷物等で関連文化財群のストーリーや構成文化財を紹介していく。	◎		○			R6～R13
15	・構成文化財の教材化の検討【新】	埋	社会見学のコンテンツとして史跡見学のパッケージ化や、教材としての利活用の方策を検討する。	◎		○			R6～R9
16	・博物館常設展示の更新・拡充、及び企画展の開催	埋・博	S56年開館以降、ほぼ変わっていない常設展示の考古分野についてこれまでの発掘の成果を盛り込んだ展示に更新する。	◎		○			R6～R13
17	・ガイドマップの作成及びガイド人材の育成【新】	埋	大室古墳群の見学者に対応するガイドマップの作成やガイド人材を育成する。	◎			○		R6～R13
18	・大室古墳群まつりの開催	埋	地元の保存会と協働して大室古墳群まつりを毎年開催する。	○		◎			R6～R13

※埋＝埋蔵文化センター、文＝文化財課、博＝博物館

(3) 関連文化財群3 川中島の戦いと伝承

ア 川中島の戦い以前の信濃武士

平安時代から鎌倉時代にかけて、険峻な山々に囲まれ、大小さまざまな河川が流れる長野市域では、多くの荘園や公領が成立し、それぞれの領主によって山城や居館が築かれるなど、比較的小規模な武士集団が分立する状況となっていた。

平安時代末期の治承4(1180)年には、信濃源氏の棟梁として、源(木曾)義仲が平氏を追討するために兵を挙げ、中信から東北信に進出した。これに対して平氏は、城資職が越後国から数万騎を率いて信濃に入った。養和元(1181)年に篠ノ井横田で合戦が行われ、義仲軍が奇襲攻撃によって勝利を収めた。市指定史跡「横田城跡」は平安時代末ごろに築かれた城館で、義仲が利用したと伝わる。現在でも堀や土塁が残り、「馬出し」など往時を偲ばせる地名も伝えられている。源平の戦いにおいて、信濃の武士は源氏方として活躍し、その後の鎌倉時代には有力な御家人となって幕府との結びつきを強めていった。

鎌倉時代を通じて信濃国は幕府財政を支える根拠地の一つであり、幕府執権である北条氏の領国であった。しかし後醍醐天皇が討幕のために挙兵すると、信濃の有力御家人のひとりであった小笠原氏は新田義貞らとともに鎌倉へ攻め込み、鎌倉幕府を滅亡させた。その功で小笠原氏は信濃守護に任命された。しかし、信濃国内における北条氏の勢力は根強く、鎌倉幕府の執権であった北条高時の遺児である時行が諏訪地域で挙兵すると、信濃武士の多くはそ



様々な合戦で拠点となった横田城跡

れに与して小笠原氏と争った。この中先代の乱はすぐに鎮圧されたものの、その後の南北朝の動乱では信濃国内の武士は南朝方・北朝方に二分され、互いに争うこととなった。

その後、小笠原長秀の代になると善光寺を拠点に領国経営を始めた。するとかねてより対立していた信濃の武士が一揆を結んでその支配に対抗した。長秀は篠ノ井横田に陣を構え彼らを討伐しようとするものの、一揆勢は佐久や大町からも続々と軍勢が集まり、不利な形勢となった長秀は塩崎へ逃れ籠城した。しかし、最終的には降伏し、京都へと逃れることになった。

その後も信濃国内では様々な騒乱が繰り返され、武士はその度に離合集散を繰り返すこととなった。山国という地形もあって、強大な権力が創出されることはなく、「国衆」と呼ばれるような在地に勢力を持つ武士集団が割拠する状況になっていった。



大塔合戦の舞台となった塩崎城跡



室町時代に記された軍記物「大塔物語」

イ 川中島の戦いとその舞台

たびたび戦乱の舞台となった長野市域であるが、中でも最も広く知られているのが越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄によって繰り広げられた川中島の戦いである。当時北信濃の有力国衆であった村上義清は、天文 19(1550)年、自領に侵攻してきた武田晴信(のちの武田信玄)に対し、それまで敵対していた同じ国衆の高梨政頼と和睦し、信濃守護であった小笠原長時と手を組んで対抗し勝利した。しかし、武田方の侵攻は止むことがなく、ついに天文 22(1553)年、義清は葛尾城を捨てて敗走し、政頼を通じて長尾景虎(のちの上杉謙信)に支援を求めた。

その後、北信濃の国衆を支援する上杉謙信と、信濃支配を進める武田信玄との間で、5回にわたって長野市域で合戦が行われ、信濃の武士はそれぞれの勢力の狭間で生き残りをかけていくことになる。

川中島の戦いの中でも特に激戦となったのが永禄 4(1561)年の八幡原の戦いとされている。江戸時代の軍記物においては謙信と信玄が一騎打ちをしたことで広く知られているが、この戦いでは信玄の弟である信繁や軍師の山本勘助が討ち死にするなど多数の戦死者を出した。現在でも市域には彼らを弔うための寺院や墓所、首塚などが残されている。

川中島の戦いを経て北信濃は次第に武田氏の領国に組み込まれていくが、その支配拠点となったのが、海津城であった。これは、永禄年間(1558-1570)年に信玄が対謙信の前線拠点として築城したとされており、現在でも「枡形虎口」など武田流の築城術の痕跡を見ることができる。信玄は、ほかにも長沼城、牧之島城など各地に城を整備し、北信濃支配を進めていった。天正 10(1582)年に織田氏によって武田氏が滅亡し、続いて本能寺の変が起こると、謙信の跡を継いだ景勝が混乱に乗じて越後国から侵入し、これらの城を拠点として支配を行った。かつて武田氏に追われた国衆も復帰を果たし、北信濃の武士の多くは上杉氏のもとで家臣として活動した。その後、豊臣政権のもとで、慶長 3(1598)年に上杉氏が奥州・会津へ転封になると、北信濃の武士はそれに従い長年暮らした地を離れた。



武田信繁討死を描いた江戸時代の錦絵



信玄が鬼無里方面の警戒を命じた書状



松代城の枡形虎口



牧之島城の三日月堀

ウ 川中島の戦いのその後

長野市域だけでなく北信濃一帯に大きな影響を残した川中島の戦いは、江戸時代になると軍学書『甲陽軍鑑』とともに全国へと広まっていった。これは武田旧臣とされる軍学者・小幡景憲おぼたかげのりが甲州流軍学を教授するためのテキストとして使用したもので、甲州流軍学は全国の大名家で取り入れられ、それとともに川中島の戦いの「物語」も広まっていった。それらは次第に歌舞伎や人形浄瑠璃などの演劇や浮世絵の題材となり、脚色されながらも多くの人々に親しまれ、様々な作品が生み出されていくことになった。



甲陽軍鑑

一方、信玄と謙信が激突した川中島の古戦場は観光地としても人気を博していく。幕末に刊行された「善光寺道名所図会」は善光寺に至る街道筋の名所旧跡をまとめたものだが、そこでも古戦場が周辺の関連する史跡とともに大きく紹介されている。



善光寺道名所図会での一騎打ちの挿絵

その人気は明治以降も衰えることなく、大正天皇が皇太子時代の明治 35(1902)年に長野へ行啓した際には、宿所である善光寺大勧進だいかんじんから松代の真田邸へ向かう途中、古戦場を見学したいという申し出があり、立ち寄ることになった。現在でもお手植えの松や記念碑が残るほか、見学のために作成された合戦の様子をわかりやすく描いた絵図などが一般にも広まったことで、古戦場の名を高めるひとつの契

機にもなった。

450 年以上経てもなお、川中島の戦いと信濃の武士をめぐる「物語」は人々の心を惹きつけてやまない。現在でも、ゲームやマンガ、アニメの中で、武田信玄と上杉謙信の一騎打ちなどは、戦国時代を代表するモチーフとして幅広い年代に親しまれており、川中島古戦場史跡公園には全国から多くの人々が訪れている。

エ 関連文化財群設定のねらい

川中島合戦は全国的に名の知られた戦いであり、現在もその合戦跡をたどって本市に足を運ぶ人も多い。しかし、関連する遺跡は市域の広範囲に及んでいるのにもかかわらず、遺跡についての調査不足とその魅力の発信力が弱いため、情報を必要とする人たちのところまで届いていない。そのため、全市にわたる川中島合戦関連史跡の調査を行い、その状況を把握した上で、その魅力について積極的な情報発信を目指して関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定等状況
1	武田信玄書状ほか博物館所蔵資料	信玄自筆書状など戦国時代の古文書類。	古文書	未指定

2	川中島古戦場史跡公園内の遺跡群	一騎打ち像や首塚など公園内に残る遺跡。	遺跡	未指定
3	武田晴信願状	戸隠神社へ奉納した願文。	古文書	市指定有形文化財
4	近世以降の川中島合戦関係資料	博物館が所蔵する合戦の錦絵、合戦案内図、絵葉書など。	歴史資料	未指定
5	青木神社跡	武田軍が勝鬨を挙げたという伝承が残る。	遺跡	未指定
6	赤川神社跡	社前にあった川は将兵の血で赤く染まったといわれる。	遺跡	未指定
7	旭山城跡（武田氏の城）	第2次合戦で謙信が籠る横山城に対峙した城。	遺跡	未指定
8	あまかざりじょうあと 尼巖城跡（東条氏の城）	真田幸隆に攻略され、海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
9	飯縄神社	修験道の霊山であり、信玄・謙信によって崇拝された。	遺跡	未指定
10	市村の渡し	第4次合戦で撤退する上杉軍の兵が多数討ち死にしたという。	遺跡	未指定
12	上杉の <small>ごぜんすい</small> 御膳水（霊山寺）	謙信が飲み水に使ったという伝承が残る。	遺跡	未指定
13	戌ヶ瀬（狗ヶ瀬）	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
14	大岡城跡（武田氏の城）	上杉軍進攻に備え武田軍によって築かれたという。	遺跡	未指定
15	大倉城跡（長沼島津氏の城）	長沼城を拠点とした島津氏の詰め城。	遺跡	市指定史跡
16	大堀館跡（第2次合戦の武田本陣）	第2次合戦の際、武田軍の本陣が置かれたという。	遺跡	未指定
17	おたまりするかのがみ 小田切駿河守の墓（円光寺居館跡）	上杉方の武将で、葛山の戦いで討ち死にした。	遺跡	市指定史跡
18	おびなたさどのかみ 大日方佐渡守の墓（昌龍寺）	武田方の武将で、広田柴の守将になったという。	遺跡	未指定
19	海津城跡（松代城跡）	武田氏が北信支配の拠点として築いた城。	遺跡	国指定史跡
20	かがいおんせん 加賀井温泉（信玄の隠し湯）	合戦で負傷した将兵を癒したと伝わる。	遺跡	未指定
21	かすみじょうあと 霞城跡（大室氏の城）	大室氏の城で海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
22	かつらやまじょうあと 葛山城跡（落合氏の城）	落合氏の城で武田軍によって落城した。	遺跡	市指定史跡
23	金井山城跡（金井氏の城）	金井氏の城で海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
24	川中島合戦勇士の首塚（霊山）	武田方の武将の骨が発見され	遺跡	未指定

	寺)	たという首塚。		
25	かんすけのみや 勘助宮	武田家軍師・山本勘助が討ち死にした場所とされる。	遺跡	未指定
26	さんせんじ 旧山千寺観音堂	第4次合戦の頃に焼失し武田氏が再興したという。	遺跡	市指定史跡
27	信玄憩いの井戸 (境福寺)	信玄や将兵が喉を潤したとされる井戸。	遺跡	未指定
28	清野氏居館跡 (古峰神社)	清野氏は上杉氏に属したがその後、武田氏に降った。	遺跡	未指定
29	くちはねしやうあざ 鞍骨城跡 (清野氏の城)	清野氏が築いた山城。	遺跡	未指定
30	栗田城跡 (栗田神社)	善光寺別当を務め武田家臣として活躍した栗田氏の城。	遺跡	未指定
31	くわやましげみ 桑山茂見の墓 (狐丸塚)	第4次合戦で主君の身代わりで討ち死にしたという。	遺跡	未指定
32	けんしんくらかけ まつ 謙信鞍掛の松 (会津比売神社)	謙信が参拝の折に馬の鞍をかけたとの伝承が残る。	遺跡	未指定
33	けんしんものみ いわ 謙信物見の岩	謙信が武田軍の動きをここから観察したと伝わる。	遺跡	未指定
34	謙信槍尻之泉	謙信が槍尻で地面を突いて水を出したと伝わる。	遺跡	未指定
35	こうがまさのぶ 高坂昌信 (春日虎綱) の墓 (明德寺)	武田四天王のひとりで、海津城の城代を務めた。	遺跡	未指定
36	こうしんあん 耕心庵	信玄が高坂昌信に命じて建立したと伝わる寺院。	遺跡	未指定
37	こしばみじょうあど 小柴見城跡 (小柴見氏の城)	小柴見氏の城で、旭山城の出城だったとされる。	遺跡	未指定
38	小松尾城跡 (中牧氏の城)	大岡城や牧之島城などをつなぐための城とされる。	遺跡	未指定
39	こもりしだてあと 小森氏館跡	小森氏は諏訪氏の一族で、武田氏に仕えたという。	遺跡	未指定
40	さいじょざん 妻女山	第2次合戦で上杉軍の本陣が設けられたという。	遺跡	未指定
41	塩崎城跡 (第5次合戦武田本陣)	第5次合戦で武田軍の本陣が設けられたという。	遺跡	未指定
42	十王堂 (東福寺)	第4次合戦の戦死者を弔ったという。	遺跡	未指定
43	十二ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
44	信玄・謙信位牌 (善光寺大勧進)	幕末に武田旧臣によって納められた位牌。	歴史資料	未指定
45	山本勘助の墓 (信州柴阿弥陀堂)	第4次合戦で討ち死にした武田軍師・山本勘助の墓。	遺跡	未指定
46	善光寺一帯	武田・上杉に重要視され、本尊などが持ち去られた。	遺跡	未指定

47	霜台城跡（保科氏の城）	保科氏の城で、街道沿いの要衝にあった。	遺跡	未指定
48	<small>たけだのぶしげ</small> 武田信繁の墓（典厩寺）	第4次合戦で討ち死にした信玄の弟・信繁の墓。	遺跡	未指定
49	竹山城跡（西条氏の城）	西条氏の城で鞍骨城の支城として機能した。	遺跡	未指定
50	<small>たんぼじま</small> 丹波島の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が渡河撤退したという。	遺跡	未指定
51	<small>ちやうすやま</small> 茶臼山本陣跡（第4次合戦武田本陣）	第4次合戦ではじめ武田軍の本陣が置かれたという。	遺跡	未指定
52	手子塚城跡（島津氏の城）	長沼を拠点とした島津氏が築いた出城とされる。	遺跡	市指定史跡
53	天城城跡（清野氏の城）	鞍骨城の出城とされる。	遺跡	未指定
54	寺尾城跡（寺尾氏の城）	寺尾氏の城で善光寺と上田方面を結ぶ要衝にある。	遺跡	未指定
55	<small>どうあいばし</small> 胴合橋	討ち死にした山本勘助の首と体を合わせた場所という。	遺跡	未指定
56	東光寺文書	海津城の守護祈願所であり武田氏の書状が伝わる。	古文書	市指定有形文化財
57	堂沢出城	若槻山城の出城とされる。	遺跡	未指定
58	戸隠神社	信玄が奉納した願文が伝わる。	遺跡	未指定
59	戸屋城跡（春日氏の城）	上杉方の拠点として鬼無里方面への足掛かりとなった。	遺跡	未指定
60	長沼城跡（島津氏の城）	島津氏の城だったが、武田氏に奪われ拠点となった。	遺跡	未指定
61	猫ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
62	ノロシ山（狼煙山）	武田軍の狼煙台が置かれていたという。	遺跡	未指定
63	馬場ヶ瀬	第4次合戦の際、謙信が追手を逃れて渡ったという。	遺跡	未指定
64	<small>ほらおおすみのかみ</small> 原大隅守の墓（地藏寺）	第4次合戦で信玄を救援したという原大隅守の墓。	遺跡	未指定
65	春山城跡（井上氏の城）	謙信が味方の城へ向けて狼煙を上げたと言われる。	遺跡	未指定
66	姫塚	討ち死にした上杉軍を弔うために建てられたという。	遺跡	未指定
67	広瀬（陣ヶ瀬）	第4次合戦の際、武田軍が利用したと言われる。	遺跡	未指定
68	広田城跡（東昌寺）	上杉軍に備えるために武田軍が築いたと言われる。	遺跡	未指定
69	<small>ふ</small> 布野の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が利用したと言われる。	遺跡	未指定

70	ほしなしたてあと 保科氏館跡（広徳寺）	広徳寺は保科氏が開基で、館跡に建てられたという。	遺跡	未指定
71	牧之島城跡（香坂氏の城）	武田四天王・馬場信春が入り北信支配の拠点となった。	遺跡	県指定史跡
72	まくはり 幕張の杉	戦場との境界を示すために幕がかけられたという。	遺跡	未指定
73	町田正之の墓（長徳寺）	武田氏のもとで活躍したが、その後帰農したという。	遺跡	未指定
74	三日城跡（上杉氏の城）	謙信が家臣に命じて3日で築いたという城。	遺跡	市指定史跡
75	髻山城跡（上杉氏の城）	越後方面と善光寺を結ぶ要衝にあった城。	遺跡	未指定
76	もろがみびんごのかみ 諸角豊後守の墓	第4次合戦で討ち死にしたという武田家臣の墓。	遺跡	未指定
77	横田城跡	源平合戦、大塔合戦、川中島合戦でも利用されたという。	遺跡	市指定史跡
78	横山城跡（第2次合戦上杉本陣）	第2次合戦で上杉軍が本陣を置いたとされる城。	遺跡	未指定
79	よしくぼじょうあと 吉窪城跡（小田切氏の城）	小田切氏の城だが、武田軍に攻められ落城したという。	遺跡	未指定
80	わかつきやまじょうあと 若槻山城跡（若槻氏の城）	若槻氏が築城し、戦国期は高梨氏の拠点だったという。	遺跡	市指定史跡
81	はぎのじょうあと 萩野城跡（春日氏の城）	春日氏の詰めの城だったとされる。	遺跡	市指定史跡
82	ふくたいらじょうあと 福平城跡（溝口氏の城）	木曾義仲家臣・今井兼平が築いたともいわれる。	遺跡	市指定史跡
83	かしわばちじょうあと 柏鉢城跡（武田氏の城）	武田氏が北信地域進出の足掛かりとした城。	遺跡	市指定史跡

関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・川中島の戦いについては研究蓄積が少ないため、発信する情報が少ない。
- ・関連文化財群を構成する文化財の総合的な情報発信ができていない。
- ・保存・活用の措置が講じられていない文化財が存在する。

方針)

- ・それぞれの文化財を適切に価値づけるため、川中島の戦いについての調査研究を進める。
- ・それぞれの文化財をつなぐストーリーを周知させる。
- ・それぞれの文化財の現状に応じて保存・活用の措置を講じていく

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置		担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1	・川中島の戦い関連資料の収集	博	川中島の戦い関連資料の調査研究や収集・購入を進める。	◎	○		○		R6～R13
2	・展示公開による情報発信	博	川中島の戦いについての研究成果を展示の形で市民等に発信する。	◎	○		○		R6～R13
3	・博物館展示設備改修	博	常に適正な環境で文化財を公開できるよう、老朽化している部分の設備改修を行っていく。	◎			○		R10～R13
4	・川中島合戦文化財周遊コンテンツの作成【新】	博・観光	構成文化財を効果的につなぐ周遊ルートなどを作成する。	◎	○	○	○	◎	R10～R13
5	・川中島の戦い関連文化財紹介HPの新設【新】	博	文化財総合ポータルサイト内に川中島の戦いをテーマとした文化財紹介コーナーを設ける。	◎	○	○	○	◎	R6～R9
6	・教育機関向け学習コンテンツの開発【新】	博	構成文化財から川中島合戦と市域の中世を学べるようなコンテンツを開発する。	◎	○	○			R10～R13
7	・牧之島城跡の保存整備を進める【新】	文	来訪者が見学しやすいよう史跡の整備を進める。	◎		○	○		R6～R9

※博＝博物館、観光＝観光振興課、文＝文化財課

(4) 関連文化財群4 松代城下町に伝わる武家文化

ア 松代藩の成立と真田家の武家文化

松代城下町の北西に位置する松代城は、甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信による川中島の戦いの際、武田信玄によって築かれた海津城がそのはじまりとされ、城のすぐ北を流れる千曲川を天然の堀とし、要害としての機能を有していた。その後、領主の移り変わりと共に、城将・城代などが入れ替わり、それに伴い城下町も整備され、松代城は北信濃支配の拠点として重要な役割を担うようになった。

元和8(1622)年、真田信之が上田（現在の長野県上田市）から松代へ移封し、松代藩真田家の初代藩主となる。真田家入部以前から、ある程度、城下町が形づくられていたため、信之は上田から真田家ゆかりの寺社を松代城下へ組み込み、町を再編した。その後も城下町の整備や領内統治がすすめられた。

藩の政治は松代城を中心として行われた。藩主は、そのほとんどを江戸で過ごしていたため、広大な松代藩領の統治にあたっては、国元（松代）の藩士らがその役割を担った。また、松代は街道の宿駅も兼ねており、流通の拠点ともなった。城下町には、城のまわりに侍屋敷、街道沿いには町人町と次第に南へ広がり、松代は真田十万石の城下町として発展した。

松代藩真田家は初代信之から10代幸民までの約250年間にわたり、松代藩主をつとめた。その真田家伝来の大名道具を収蔵するのが真田宝物館である。大名道具は、甲冑や刀剣といった武家の象徴である武具類をはじめ、屏風・掛軸などの書画、また調度品や婚礼道具など、多岐にわたる。約5万点の資料から、真田家の歴史を知るとともに、華やかな武家文化を感じることができる。



真田信之画像（真田宝物館蔵）



松代城下図（真田宝物館蔵）



真田昌幸所用 昇梯子具足
（真田宝物館蔵）



香道具（真田宝物館蔵）

イ 水の利用と庭園文化

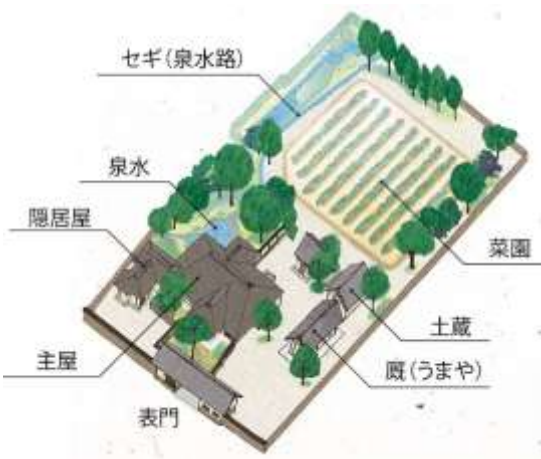
長野盆地の南部に位置する松代は、北を千曲川、残りの三方を山に囲まれた城下町であり、千曲川の後背湿地を利用した広大な水堀で囲まれる松代城を中核に、千曲川の支流となる^{かんだがわ}神田川・^{せきやがわ}関屋川などの小河川による扇状地上に町が形成された。

北下りの緩斜面に営まれた城下町には、河川からの取水や湧水を利用した水路網が発達しており、江戸時代前期には、水路普請と保守管理を主な業務とする「水道奉行」と呼ばれる家中の役職が存在した。松代は、地形的に最北端の松代城や上級武家地が低地に位置することから、水路の水質保全に関する通達が幾度も出されており、明和6(1769)年の家中あて^{かいじょう}廻状では、水路内へ「^{ちりあくた}塵芥不浄のものを捨てること」、「洗濯物等を浸しておくこと」などを禁じている。

松代の武家屋敷には、周囲の山並みを借景とした庭園があり、中央に^{せんすい}泉水（庭池）を配することが一般的であった。泉水は、観賞目的以外にも、防火用水や菜園等への水やり、冬の雪落としなどの生活に密着した水利用がされていた。松代の水路は道路に面する「カワ」と敷地の背割りを流れる「セギ」に分かれるが、セギから分化して各戸の泉水から泉水に流れる特徴的な水路形態「^{せんすいろ}泉水路」が残っている。近年では、これらの特徴的な庭園文化を後世に伝えるため、地域住民を主体とする調査や保全活動が進められている。



周囲の山並みを借景とする新御殿跡（真田邸）の庭園



武家屋敷の構成（旧横田家住宅）



南部武家屋敷地の規則性



武家屋敷の「泉水路」

ウ 城下町の寺社と祭礼

松代は元和8(1622)年に真田信之が上田より移封して以降、明治の廃城までの約250年間、真田氏が城主として地域を治めた。真田家にゆかりのある長國寺、大英寺、大林寺などは、城下町を囲む外郭土塁(御土居)に収まっていない一方、寺町の證蓮寺や御安町の蓮乗寺、龍泉寺などは外郭土塁内に位置し、真田家移封以前の慶長年間には現在地に存在したと伝わる。また西条の清水寺や東条の清滝観音、皆神山の熊野出速雄神社などは、城下町縁辺地域に位置するが、松代城の築城以前から存在した寺社であり、仏像や古文書などの歴史資料も残されている。これらの造営時期の異なる多数の寺社建築とそこで営まれる祭礼が、松代地区の重層的な歴史的風致を生み出している。

松代地区の寺社建築として、真田家ゆかりの靈廟建築が挙げられる。長國寺の真田信之靈屋をはじめとして、西楽寺の真田信重靈屋、大英寺の大蓮院靈屋など複数の靈屋建築が現存している。

また、江戸時代から続く祭礼としては、玉依比売命神社の祇園祭や祝神社の御柱祭などがあり、町衆が中心となって営まれた。松代の町人地は、城下町の北国街道松代道沿いに形成され、馬喰町・紙屋町・紺屋町の上三町、伊勢町・中町・荒神町の本町三町、肴町・鍛冶町の脇二町を合わせて町八町と呼ばれた。江戸時代の祇園祭では、町毎に舞台や山車、神楽獅子舞を行っており、最後に松代城の大御門前で「大門踊り」が踊られていた。この踊りは、豊年踊りや雨乞い踊りの要素も含んだ風流踊りで現在まで継承されており、往時の姿は「松代天王祭図巻」にも描かれている。



真田信之靈屋(長國寺)



松代城跡で行われる大門踊り



大門踊り「松代天王祭図巻」(真田宝物館蔵)



「松代天王祭図巻」(真田宝物館蔵)

エ 歴史文化を守り伝える風土

戦国時代に築かれた松代城は、真田家の移封以後、花の丸の造成や千曲川の瀬直しに伴い一部拡張はされたものの、大きな改変をされずに廃城を迎えている。近年、櫓門や内堀、土塁等の一部が、調査に基づき江戸時代後半期の姿に復元された。城郭に隣接する新御殿は、江戸時代後期、参勤交代制度の緩和に伴い建てられた城外御殿であるが、廃城以降も真田氏別邸として利用され、表と奥の空間を残す御殿建築や土蔵群、庭園など御殿の敷地全体が残っている。

また、安政2(1855)年、松代藩の藩校として開校した文武学校は、文学所、教室2棟(東序・西序)、剣術所、柔術所、弓術所、槍術所、腰掛、文庫蔵、番所、表門などからなり、敷地も含めて当時の建物がほぼ現存する全国唯一の藩校である。現在も地域住民による教育の場や武道の練習の場として現在も機能している。

このほか、重要文化財である旧横田家住宅をはじめ、松代藩士の住まいである武家屋敷や真田家ゆかりの寺社なども城下町には残されている。これらの歴史的建造物や、真田宝物館に収蔵されている真田家の伝来品や藩の記録、家臣所有の資料群等により、当時の政治経済や文化、暮らし振りを深く理解することができる。

松代地区では、歴史的建造物や庭園など数多くの歴史文化が残っていることから、継続的な調査やこれらの歴史文化をテーマとしたまちあるき、歴史的建物内での古武道や茶道、香道等の日本文化体験など、地域住民を主体とする多様な活動が進められている。また、松代町柴地区で採掘され、庭石や石垣等に利用される柴石(輝石安山岩)や松代温泉、温泉水を利用した釉薬による松代焼の復活など、地域で受け継がれてきた文化を守り伝える風土が広く浸透しており、その心意気こそが、地区全体に豊富な文化財が残る要素となっている。



復元された松代城



新御殿(真田邸)



旧文武学校



旧横田家住宅



旧山寺常山邸庭園

オ 関連文化財群設定のねらい

松代城下町には松代藩と関連する歴史資料や史跡、建造物、生活文化、風習が集積しており、未指定を含む文化財についての調査や保存・活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。



旧文武学校で行われる剣道の稽古

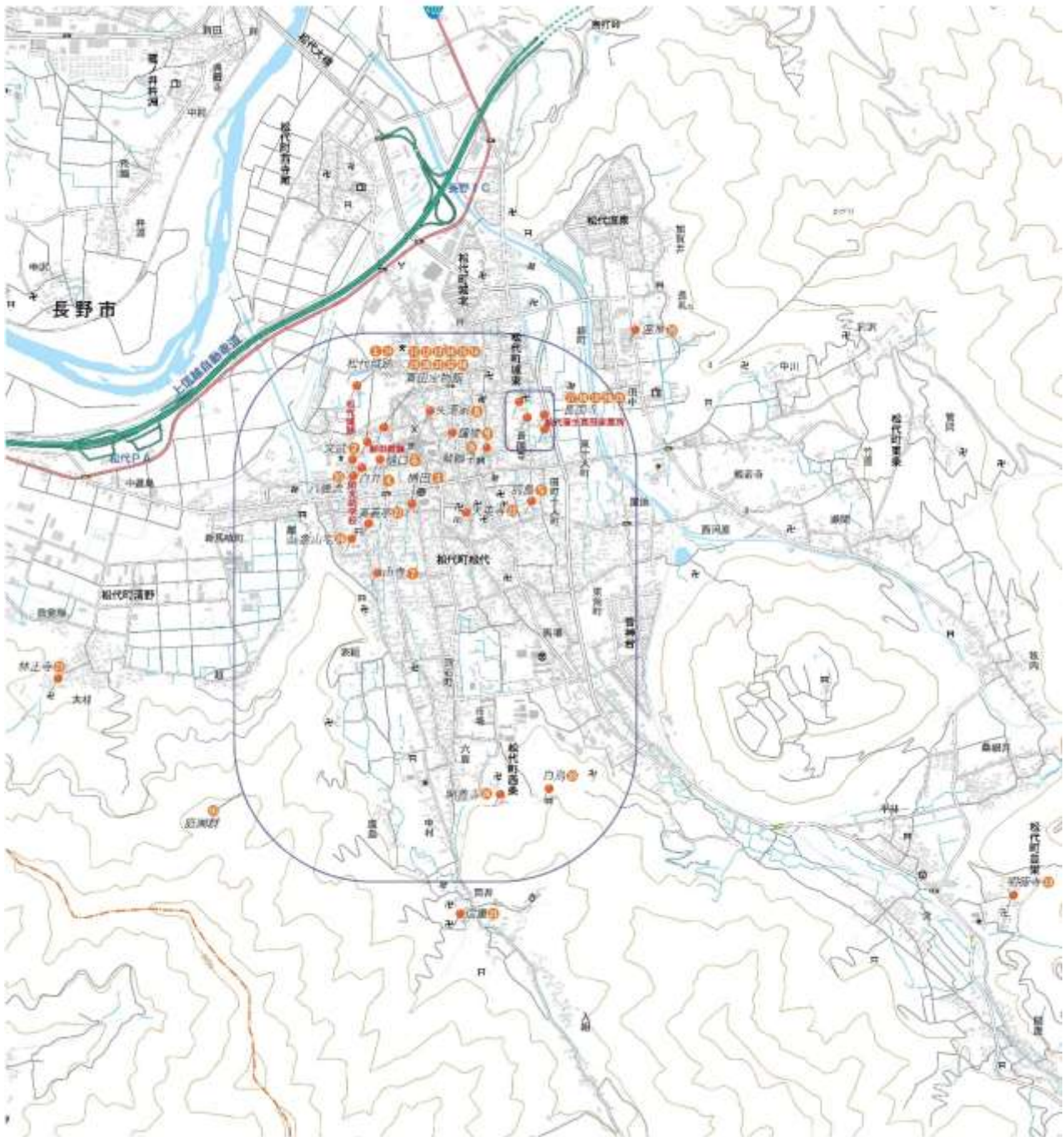
構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定区分
1	松代城跡 附 新御殿跡	歴代城主の居城と江戸時代後期に建てられた城外御殿。	遺跡	国指定史跡
2	旧文武学校	江戸時代後期に建てられた松代藩の藩校。	遺跡	国指定史跡
3	旧横田家住宅主屋・表門・隠居屋・土蔵2棟	松代藩士・横田家の屋敷。	建造物	重要文化財
4	旧白井家表門	松代藩士・白井家の表門。	建造物	市指定有形文化財
5	旧前島家住宅	松代藩士・前島家の屋敷。	建造物	県宝
6	旧樋口家住宅	松代藩士・樋口家の屋敷。	建造物	市指定有形文化財
7	旧山寺常山家住宅書院・表門・頌徳門	松代藩士・山寺家の住宅書院ほか。	建造物	国登録有形文化財
8	矢沢家の表門	松代藩家老・矢沢家の表門。	建造物	市指定有形文化財
9	旧松代藩鐘楼	享和元（1801）年再建の鐘楼。	建造物	市指定有形文化財
10	城下町の庭園群	松代城下に巡らされた水路網。	名勝	国登録・未指定
11	大太刀（青江）	真田昌幸の兄・信綱所用と伝える。備中青江派の作。	工芸品	重要文化財
12	短刀 銘吉光	真田信之の次男・信政が徳川家康から拝領したと伝える。粟田口吉光の作。	工芸品	県宝
13	刀 無銘（三原の大刀）	真田昌幸が朝鮮出兵の恩賞として豊臣秀吉から拝領したと伝える。	工芸品	県宝
14	真田家文書	松代藩真田家に伝来した文書群。	書跡・典籍	県宝
15	佐久間象山筆 桜の賦	松代藩士・佐久間象山の墨書。	書跡・典籍	市指定有形文化財
16	松代焼コレクション	江戸時代後期、松代藩の殖産興業として始められた焼き物。	有形の民俗文化財	市指定有形民俗文化財
17	真田信之霊屋（宝殿・表門）	真田家の菩提寺・長國寺にある初代藩主・真田信之の霊屋。	建造物	重要文化財
18	真田信弘霊屋および表門	真田家の菩提寺・長國寺にある四代藩主・真田信弘の霊屋。	建造物	県宝
19	長國寺開山堂	もとは三代藩主・真田幸道の霊屋	建造物	県宝

		だったが、現在は移築し長國寺の開山堂となっている。		
20	松代藩主真田家墓所	真田家の菩提寺・長國寺にある真田家の墓所。	遺跡	国指定史跡
21	真田信重霊屋 附前机1脚・釣灯笼2個	真田信之の三男・信重の菩提寺・西楽寺にある霊屋ほか。	建造物	重要文化財
22	大英寺本堂および表門 附板絵著色三十六歌仙36枚	真田信之の正室・大蓮院の菩提寺・大英寺にある。もとは大蓮院の霊屋だったが、現在は本堂となっている。	建造物	県宝
23	林正寺本堂および表門	もとは二代藩主・真田信政の霊屋として長國寺にあったが、昭和になって林正寺に移築した。	建造物	県宝
24	開善寺経蔵 附棟札1枚	真田家の祈願寺である開善寺の経蔵と棟札。中には八角の輪蔵をおく。	建造物	県宝
25	恩田木工民親の墓	松代藩家老・恩田木工民親の墓。	遺跡	市指定史跡
26	佐久間象山宅跡	松代藩士・佐久間象山の居宅跡。象山神社となり位置する。	遺跡	県指定史跡
27	高義亭	松代藩家老・望月家の下屋敷。佐久間象山が塾居中に住した。	建造物	市指定有形文化財
28	白鳥神社の木造神馬	真田家の氏神を祀る白鳥神社にある。八代藩主・真田幸貫寄進。	彫刻	市指定有形文化財
29	佐久間象山筆 紙本水墨山水図	佐久間象山作の山水図。	絵画	市指定有形文化財
30	小山田家文書のうち真田信繁書状	真田信之の弟で大坂の陣での活躍が知られる真田信繁の書状。	古文書	市指定有形文化財
31	海野家文書	松代藩士・海野家に伝来した文書。真田信之書状などを含む。	古文書	市指定有形文化財
32	東光寺文書	武田氏の海津城築城後、城の祈願寺であった蓮光寺（のち東光寺）伝来の文書群。	古文書	市指定有形文化財
33	明德寺文書	城主らが発給した寺領安堵状や禁制、書状などの文書群。	古文書	市指定有形文化財
34	大門踊り	松代天王祭の最後に松代城大御門前で踊ったことから、その名がある。	無形文化財	市指定無形文化財
35	八橋流箏曲	江戸時代、八橋検校による箏曲の流派。松代藩内で伝えられた。	無形文化財	市指定無形文化財
36	勢獅子	松代天王祭にあたり、伊勢町で出す獅子。	無形の民俗文化財	市指定無形民俗文化財
37	松代焼	松代焼は昭和の初期に一度絶えるが、その後、現代松代焼として復興された。	有形の民俗文化財	現代の松代焼は未指定

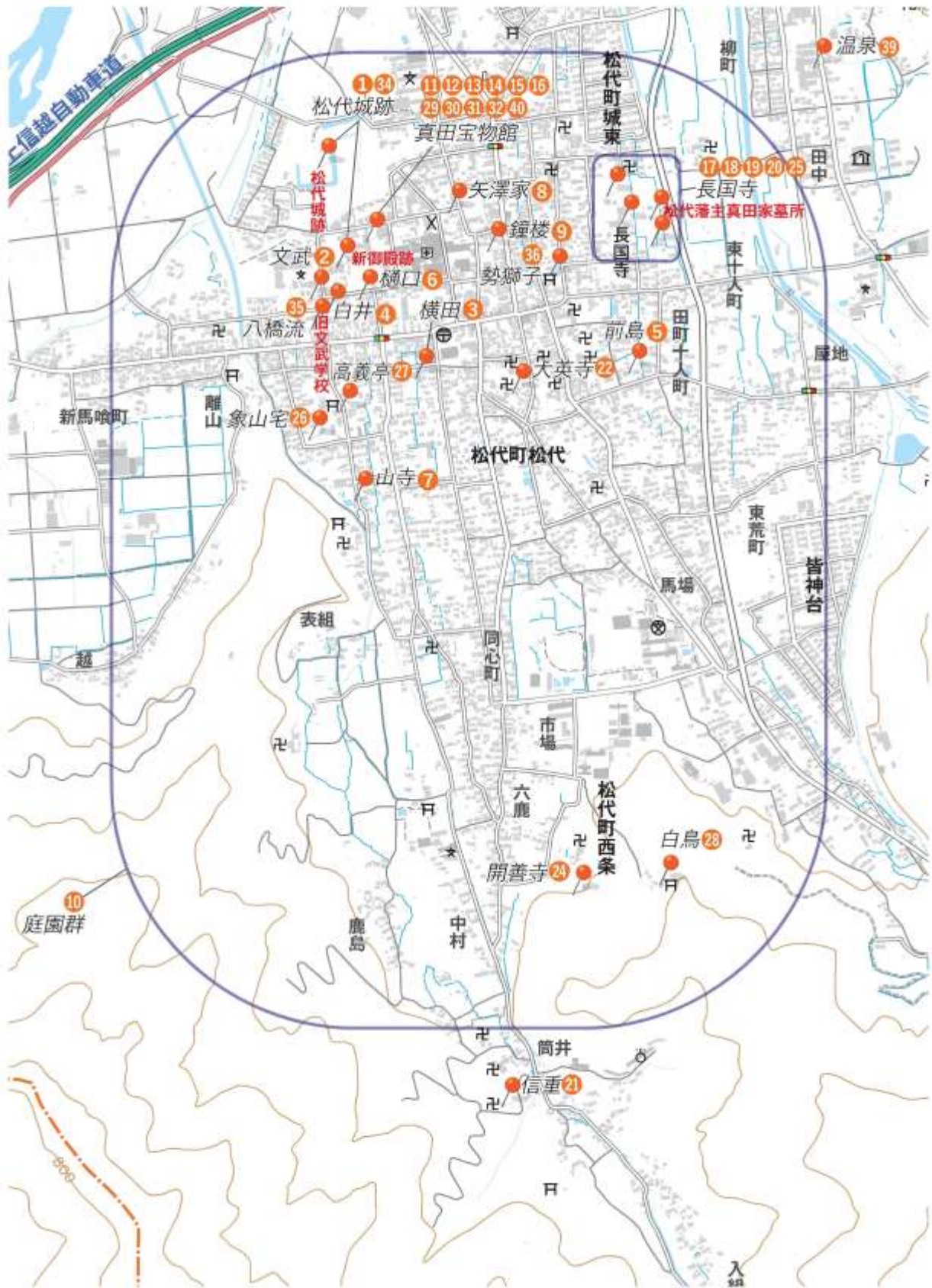
38	松代雅楽 ^{ががく}	明治時代初めに宮島春松によって松代ではじめられた雅楽。	無形文化財	未指定
39	松代温泉	松代地域の温泉。茶褐色のにごり湯が特徴。	地質鉱物	未指定
40	松代地区の寺社・個人所蔵古文書	松代地域の寺社や個人家に伝来する文書資料。	古文書	未指定

構成文化財の位置図



※絵画・彫刻・工芸品等（真田宝物館収蔵資料等）を除く

拡大地図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・市内外に伝わる松代や真田家に関する資料調査及び城下町に残る歴史文化の調査が不足している。
- ・松代に残る文化財を総合的に調査・収蔵・展示・教育普及するための拠点である真田宝物館の老朽化により、既存収蔵資料の保存に課題が生じているとともに、収蔵スペースの確保も難しい状況にある。
- ・地域のシンボルである松代城跡について、整備が中途の状態にとどまっており、歴史的な特徴や魅力が分かりづらい。
- ・市所有文化財について、防災等の対策が十分ではない。
- ・所有者の高齢化、地域コミュニティの変化（世代交代など）により、文化財の消失が増加している。
- ・来訪者に魅力的な情報発信ができていない。関連文化財群を活かした歴史まちづくり、文化観光を地域と共に推進する必要がある。
- ・若者世代において地域の歴史文化に関する関心が低く、保存・活用を担う人材が不足している。

方針)

- ・松代城下町や真田家に関する資料の把握及び調査を進める。
- ・関連文化財群の拠点施設となる真田宝物館の設備や機能の充実化を図る。
- ・真田宝物館を中心とする関連文化財群の計画的な保存整備や防災対策を検討する。
- ・松代城跡について、調査に基づく遺構の保存整備と公開活用のための環境整備を進める。
- ・市所有文化財について、計画的な保存整備と防災等の対策を進める。
- ・関連文化財群を活かした情報発信や着地型文化観光推進をはかり、地域全体で保存活用の仕組みづくりを進める。
- ・教育機関と連携して、次世代を対象とした地域の歴史文化に対する興味関心を高める機会創出と共に、文化財の担い手となる市民・団体の育成、技術者の育成支援等を検討する。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1	・松代藩関係資料調査	宝	松代藩に関する資料の調査・収集を進める。	◎		○		R6～R13
2	・松代城下町文化財調査	宝	城下町に残る歴史的建物・庭園・祭礼等の調査を進める。	◎		○		R6～R13
3	・流失した松代藩関係資料の収集	宝	流失した松代藩関係資料の収集・購入を進める。	◎				R6～R13
4	外部研究機関との共同研究事業の推進	宝	多岐の分野にわたる松代藩関係資料を、必要に応じて外部研究機関と協力しながら調査研究していく。	◎		○		R6～R13
5	・真田宝物館展示室及び収蔵施設整備の検討【新】	宝	老朽化している真田宝物館の展示室と収蔵庫の整備の実施を検討する。	◎		○		R10～R13
6	・松代城跡保存整備事業	文	国指定史跡、松代城跡の保存整備を行う。	◎				R6～R13
7	・旧横田家住宅の防災施設整備事業	文	重要文化財旧横田家住宅の防災施設の整備を行う。	◎				R6～R13
8	・登録文化財への登録推進支援	文	松代地区住民自治協議会が主体となって推進している、歴史的建造物の国への登録申請の支援をする。	○		◎	○	R6～R13
9	・歴史的まちなみ環境整備事業	文	景観重要建造物への修景補助や無電柱化、道路の美化を行う。	◎				R6～R13

措置		担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
10	・伝統環境保存事業	文	伝統環境保存条例に基づき設定された伝統環境保存区域（表柴町・馬場町・代官町・竹山町）の歴史的まちなみを保存するため、開発規制や修景補助を行う。	◎	○	○			R6～R13
11	・庭園の維持管理体制の検討【新】	文	松代に残る泉水・泉水路保存のための維持管理について、地元団体とともに検討していく。	◎	○	○			R6～R13
12	・文化財保存のための財源確保	文	文化財保存のための財源としてふるさと納税制度を活用する。	◎					R6～R13
13	・松代藩関係資料購入基金創設の検討【新】	文・宝	松代藩関係資料の散逸防止を目的とした基金の創設を検討する。	◎		○			R6～R13
14	・災害時の文化財レスキュー体制の検討【新】	文・宝	災害時に松代の歴史的建造物、歴史資料等を救出・保全するためのレスキュー体制の構築を検討する。	◎	○		○		R6～R9
15	・松代藩関係文化財の情報発信	宝	真田宝物館収蔵資料DBの公開及びメディアを利用した情報発信を行う。	◎					R6～R13
16	・着地型文化観光コンテンツ開発支援	宝・観光	松代城下町ならではの文化体験ができる観光コンテンツを観光課や観光協会と協力して開発する。	◎		○		○	R6～R13
17	・歴史的建造物活用事業の推進【新】	文・観光	歴史的建造物を活用した宿泊施設・商業施設等を促進させる。	◎		○		○	R10～R13
18	・教育機関と連携した普及啓発事業	文	教育機関と連携して、小中学校等を対象に松代城下町の歴史文化についての出前講座や教材開発等を進め、学習機会を創出する。	○		◎	○	○	R10～R13
19	・松代藩関係文化財の普及事業	宝	松代にある文化財保存の理解者・担い手育成を目的に、松代藩や真田家に関する展示・WS等の教育普及事業を実施する。	◎					R6～R13
20	・文化財の担い手育成	宝	文化財の整理・調査及びガイドを行う文化財の担い手となるボランティアや団体を育成する。	◎		○	○		R6～R13
21	・建造物修理に必要な技術継承、人材育成支援【新】	文	歴史的建造物の修理に必要な技術の継承及び原材料の確保のための支援を行う。	○		◎	○		R10～R13
22	・伝統工芸、伝統芸能の技術継承、後継者育成支援【新】	文・観光	松代焼といった伝統工芸や大門踊り・八橋流箏曲といった伝統芸能の技術継承や後継者育成の支援を行う。	○	◎	◎			R10～R13

※宝＝真田宝物館、文＝文化財課、まち＝まちづくり課、観光＝観光振興課

(5) 関連文化財群5 善光寺・門前町に息づく歴史文化と祭礼

ア 門前町の立地と歴史

善光寺は、裾花川と湯福川の扇状地上の緩やかな南下りの傾斜地で、縄文時代以降断続的に集落が営まれた地に位置する。平安時代末期になると、中央の寺院が地方寺院の別当職を掌握する傾向が高まり、善光寺も有力寺院である天台宗寺門派の園城寺（三井寺）の末寺となり、その名前が貴族社会・仏教界で知られるようになった。「吾妻鏡」には、源頼朝が国内の御家人に再建を命じており、全国の武士層に善光寺信仰を普及させることとなった。

門前町の発掘調査では、中世の区画と推定される溝状遺構が南北軸・東西軸で検出されており、現在の門前町周辺地割がこの頃から発展していったことが伺える。「一遍聖絵」や「大塔物語」は、大工・仏師・絵師・遊女などの姿とともに、多くの参詣者を集める門前町の様子を描く。

中世から近世において、善光寺は火災によって幾度か建造物を焼失している。宝永4(1707)年の本堂再建においては、火災を避けるために、北之門町を城山下に移転させ、新たな境内地を土塁で囲むと共に、湯福川を迂回させるなど大規模な造成が行われた。この造成により、新たな境内地には本堂、三門、経蔵が築造され、堂庭と呼ばれる本堂跡地には、仮設の店舗である仲見世が広がり、その周囲には宿坊群が連なる現在の町並みの原型ができあがった。その後、江戸時代末の弘化4(1847)年、明治24(1891)年の火災では仁王門や仲見世、宿坊群の多くを焼失したが、本堂や三門、経蔵は無事であった。現在も善光寺の門前町では、火災対策として構造木材を塗り込めた土蔵や店蔵造りの建造物、防火用水としても利用された水路の畳差し跡¹などが残っており、火災に悩まされた門前町の暮らし振りがうかがえる。



善光寺本堂



善光寺門前に残る石組水路



畳差し箇所と歴史を伝える看板

¹ 畳差し：各家の一間下屋に水路があり、火災時に畳を差し入れ消火活動に用いたと伝わるもの

イ 善光寺・門前町で営まれる祭礼

近世に入ると全国から善光寺へ参拝する人の数が増え、互いにお金を出し合い、旅行資金を積み立てて善光寺へ代参する善光寺講も全国各地に組織された。このうち明治41(1908)年に滋賀県草津町でつくられた善光寺講が、後に株式会社日本旅行へと発展したことは有名である。現在でも数は少なくなったが、講として参拝に来る人々の姿が見られる。

これらの人々を受け入れてきた宿坊は、おのおの独立した寺院であり、本尊が安置される小御堂^{おみどう}、参拝者の宿泊や住職等の居住空間である庫裡と、門、中庭などで構成される。善光寺には、大勧進^{だいかんじん}のもとに天台宗25院(台家)^{だいほんがん}と大本願のもとに浄土宗14坊(浄家)の計39件の宿坊があり、それぞれに趣向を凝らした精進料理²を味わうことができる。また、善光寺の寺務運営は、宿坊を営む両宗によって担われている。

善光寺では、お朝事³や堂童子⁴をはじめ、数多くの年中行事が営まれているが、最大の催事が御開帳である。御開帳には他国に出で行う「出開帳^{でがいちよう}」と善光寺で実施する「居開帳^{いがいちよう}」があり、現本堂の造営に際しては、元禄年間に全国で出開帳を開催し、浄財を集めたとされる。江戸時代、不断念仏行の満行を契機に開催されていた「居開帳」は、全国から多数の参拝者を集めており、弘化4(1847)年の「如来堂御遷座参詣群集之図^{にょらいどうごせんざさんけいぐんしゅうのず}」でもその様子を伺える。現在の御開帳は、観光の資源としての要素も大きくなり、数え年で7年に1度ごとに開催されるようになった。善光寺の御開帳は、秘仏である本尊の代わりに、本尊と同じ

姿の前立本尊^{まえだちほんぞん}(金銅阿弥陀如来及び両脇侍立像)を公開すると共に、前立本尊から伸びる「善の綱」と呼ばれる綱が本堂前の回向柱^{えこうばしら}に繋がれており、参拝者は回向柱に触れることで前立本尊と結縁することができる^{とされる}。回向柱は、松代藩真田家が本堂建立の普請にあたった縁から、現



宿坊の精進料理



善光寺の御開帳(中日庭儀大法要)



「善光寺祭礼図巻」(真田宝物館蔵)

² 精進料理：仏教の戒律により、野菜、大豆製品などを主な材料とし、素材の風味を生かした料理

³ お朝事：毎朝行われる朝の勤行であり、天台宗の貫主、浄土宗の上人がそれぞれ導師となる

⁴ 堂童子：浄家の堂童子役によって行われる善光寺の年越・正月行事

在でも松代地区からの寄進が伝統となっている。

善光寺周辺の寺社では、弥栄神社の御祭礼や諏訪社系の御柱祭など、門前の地域住民によって伝統的な祭礼が営まれている。特に弥栄神社の御祭礼は、門前の各町で所有・保管する屋台を曳き出し、門前町内を巡行する祭礼であり、「善光寺御祭礼絵巻」（真田宝物館所蔵）に描かれた姿を今に伝える。当初は、善光寺周辺の旧善光寺領で行われていたが、明治 21(1888)年に長野駅が善光寺の南方 2 k m の位置に開業すると、駅周辺の近代化に伴う商業地の拡大が進み、参加町は徐々に南部へと拡大していった。現在の御祭礼では、善光寺門前から長野駅までの旧参道沿いを中心に屋台が巡行しており、店蔵と擬洋風の建築物が混在する多様な文化を受け入れた門前町を舞台に、江戸時代から続く伝統的な祭礼が行われている。

ウ 関連文化財群設定のねらい

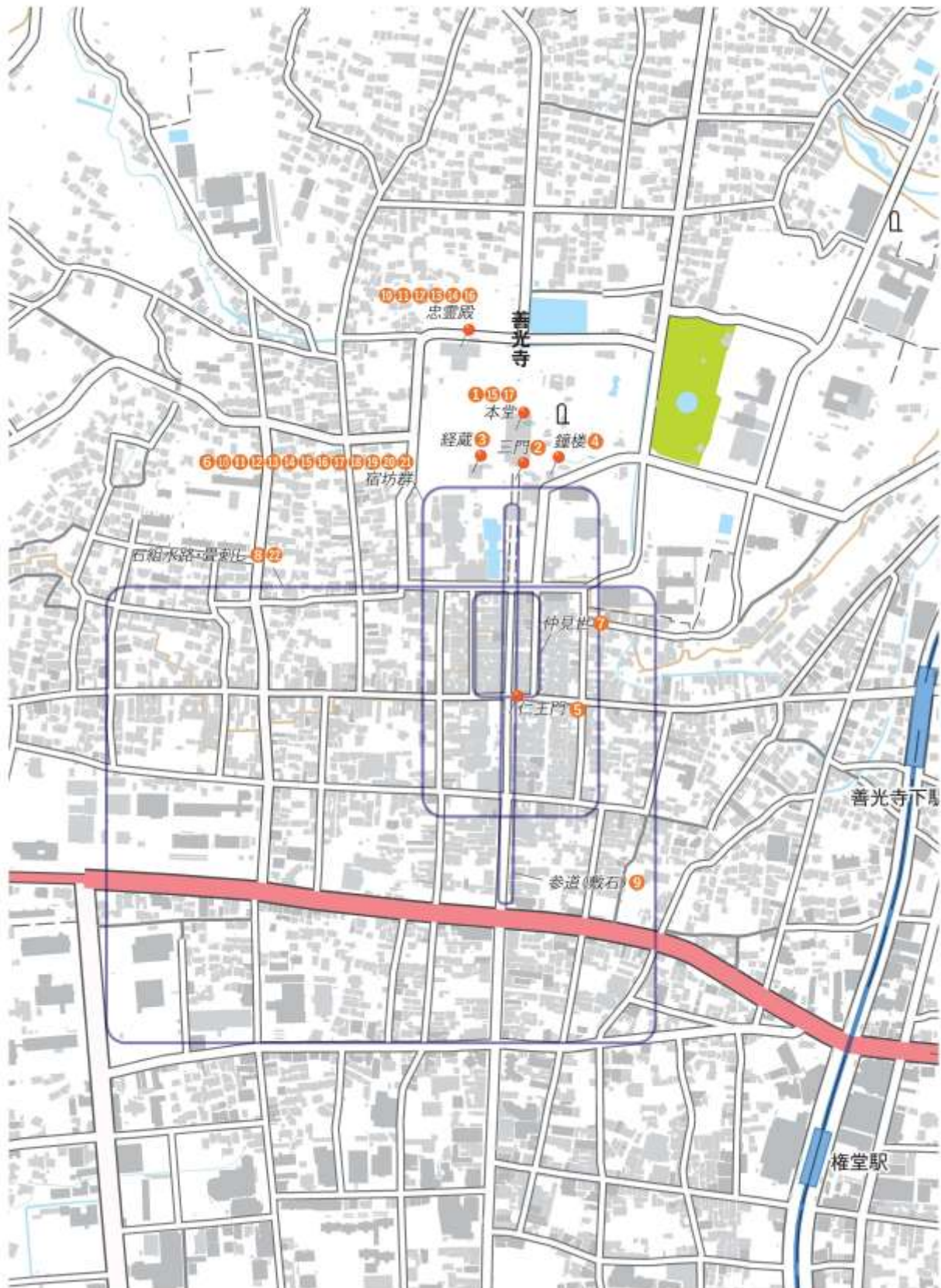
善光寺とその門前町一帯には、善光寺と関連する歴史資料や遺跡、建造物、生活文化、風習が集積しており、未指定を含む文化財についての調査や保存・活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定等状況
1	善光寺本堂	東日本最大級の木造建造物で、最奥の瑠璃壇に本尊を祀る内々陣、内陣、外陣の空間からなる。	建造物	国宝
2	善光寺三門	本堂正面に位置し、南向きに建てられた重厚な二重門。	建造物	重要文化財
3	善光寺経蔵	本堂南西に、東向きに建てられており、内部に仏教経典を納めた八角輪蔵を有する。	建造物	重要文化財
4	善光寺鐘楼	本堂南東に位置し、切石積基壇に建つ吹放し形式の鐘楼。梵鐘は重要美術品。	建造物	国登録有形文化財
5	善光寺仁王門	本堂正面に伸びる参道上、仲見世と宿坊の間に建つ建造物で、正面に一对の仁王像を安置。	建造物	国登録有形文化財
6	善光寺の宿坊群	大勧進を本坊とする天台宗 25 院と、大本願を本坊とする浄土宗 14 防からなる寺院。	建造物	国登録・未指定
7	仲見世の歴史的建造物	堂庭に建てられたお土産等の商店群。江戸時代は仮設であったが、明治以降に常設となる。	建造物	未指定
8	門前町の歴史的建造物	旧三河屋商店等の江戸期の建物や、藤屋旅館、旧信濃中馬合資会社社屋等の近代建造物群。	建造物	国登録・未指定

9	善光寺参道（敷石）	江戸中橋上榎町の太竹屋平兵衛の寄進により築かれたとされる郷路山産安山岩の敷石。	遺跡	市指定史跡
10	善光寺等所有の仏教関係資料	金銅阿弥陀如来及両脇侍立像をはじめ、善光寺、宿坊等で有する多数の仏教関係資料。	彫刻、工芸品	重要文化財・県宝・市指定・未指定
11	善光寺等所有の絵画資料	絹本著色阿弥陀聖衆来迎図をはじめ、大本願、大勧進、宿坊等で所有する絵画資料。	絵画	重要文化財・県宝・未指定
12	善光寺等所有の古文書・書跡	紙本墨書源氏物語事書をはじめ、大勧進、大本願、宿坊等で所有する古文書・書跡。	古文書、書跡・典籍	重要文化財・市指定・未指定
13	善光寺関連の歴史資料（造営図等）	日本最古の設計図である善光寺造営図をはじめ、大勧進等が所蔵する歴史資料。	歴史資料	重要文化財・未指定
14	善光寺関連の考古資料	元善町遺跡からは、古代瓦や塑像と推定される土製品、中世の輸入陶磁器や石造物が出土。	考古資料	未指定
15	善光寺堂童子（正月行事）	浄家の堂童子役によって行われる善光寺の年越・正月行事。	無形の民俗文化財	未指定
16	善光寺の正月行事用具	善光寺の正月行事において、頭役（堂童子）を中心とする諸儀礼行事に使用される用具類。	有形の民俗文化財	市指定有形民俗文化財
17	善光寺御開帳（居開帳）	数え年で七年に一度、本尊と同じ姿をした前立本尊を公開する盛大な行事。	無形の民俗文化財	未指定
18	善光寺関連遺跡（元善町遺跡等）	湯福川の扇状地に位置する長野遺跡群に含まれる元善町遺跡、善光寺門前町跡など。	遺跡	未指定
19	精進料理	仏教の戒律により、野菜、大豆製品などを主な材料とし、素材の風味を生かした料理。	無形の民俗文化財	未指定
20	絵解き	善光寺縁起の内容・伝承を、絵巻物を用いて解説する行為。	無形の民俗文化財	未指定
21	善光寺の年中行事	年越・正月行事の堂童子をはじめ、季節ごとに行われる催事や、毎日行われるお朝事等がある。	無形の民俗文化財	未指定
22	門前町の石組水路・畳差し	各家の間下屋に水路があり、火災時に畳を差し入れ消火活動に用いたと伝わるもの。	有形の民俗文化財	未指定
23	ながの祇園祭	西之門町の弥栄神社の祇園祭で、善光寺門前町の屋台が町中を巡行する。戦後いったん途絶えたが平成24（2012）年から「ながの祇園祭御祭礼屋台巡行」の名で復活した。	無形の民俗文化財	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・所有者・管理者の世代交代により、収蔵資料の管理・現状把握ができていない。
- ・歴史的建造物の調査が不足しており、価値づけや保存活用の対策がとられていない。
- ・善光寺関連資料の保管建物の経年劣化が進んでおり、資料劣化の可能性が高まっている。
- ・文化財の維持管理のための費用が所有者にとって大きな負担となっており、適正な維持管理ができない文化財が見られる。
- ・善光寺特有の歴史文化に対する調査が不足しており、魅力的な情報発信ができていない。
- ・地域の歴史への理解を深め、保存・活用を担う次世代の人材育成が必須である。

方針)

- ・善光寺及び関連寺院の収蔵資料の現状把握を進める。
- ・善光寺及び門前町において歴史的建造物や特有の歴史文化に対する継続的な調査を進める。
- ・関連文化財の適正な管理により、資料劣化の危険性を取り除くとともに、資料を価値づけるための調査を行う。
- ・文化財の適正な管理が維持できるような施策を実施あるいは検討する。
- ・善光寺及び門前町において、特有の歴史文化の魅力的な情報発信を検討していく。
- ・教育機関と連携して、小中学生を対象とした善光寺門前町の歴史文化に関する興味関心を高める機会を創出すると共に、文化財の担い手となる技術者の育成支援等を検討する。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・善光寺関連資料の把握調査	博・文	善光寺関連仏教美術・文書等の現状把握調査を継続的に実施する。	◎	○		○		R6～R13
2 ・歴史的建造物、祭礼などの調査の推進	文・博	善光寺門前町にある歴史的建造物群や、そこで行われる祭礼の把握調査を進める。	◎	○		○		R6～R13
3 ・善光寺本堂の耐震、防災対策の検討支援	文	善光寺本堂の大修理に向けて、耐震・防災対策等を所有者とともに検討する。	○	◎				R6～R13
4 ・防災訓練の実施	文	善光寺防災マニュアルに基づく定期的な訓練の実施及び、見直しを行う。	○	◎	◎			R6～R9
5 ・善光寺保存事業の実施支援	文	善光寺保存活用計画に基づき行われる所有者の保存事業に対し支援を行う。	○	◎		○		R6～R9
6 ・善光寺関連施設修理の検討【新】	文	善光寺忠霊殿や大勸進収蔵庫等の修理について、所有者とともに検討する。	○	◎	○			R6～R9
7 ・建築基準法適用除外の検討【新】	文	歴史的建造物の保存活用、防災のため、建築基準法適用除外の検討を行う。	◎	○	○	◎		R6～R9
8 ・リノベーション支援	観光	古い建物を活用したリノベーションへの支援を行う。	○		◎			R6～R13
9 ・歴史的まちなみ環境整備事業	まち	景観重要建造物への修景補助や無電柱化、道路の美装化を通じて文化財が建ち並ぶまちなみの景観を整備する。	◎		◎			R6～R13
10 ・文化財修理基金創設の検討【新】	文	文化財修理に要する費用を賄う基金等の創設を検討する	○		◎			R6～R13
11 ・門前まちあるきイベントの促進支援	文・まち観光	善光寺門前町の魅力を伝えるまち歩きイベントの促進に協力・支援する。	○	◎				R6～R13
12 ・文化財を活用した観光コンテンツ開発支援【新】	文・観光	善光寺門前町に多数存在する文化財に触れ、善光寺の歴史文化を実感してもらえるような観光コンテンツを関係各課や地元団体と連携して開発していく。	○		◎		◎	R6～R13
13 ・ガイドマップの更新及びガイド人材育成支援	文・観光	ガイド協会や地元の研究団体が行っているガイドマップの更新やガイド人材育成を支援する。	○		◎	○		R6～R9
14 ・教育機関と連携した普及啓発事業	文・博	地元の小中学校等を対象に善光寺門前町の歴史文化について出前講座や教材開発等を通じて伝えていく。	◎		○			R6～R13
15 ・建造物修理の技術継承と後継者育成支援	まち	歴史的建造物の修理に必要な技術の継承及び継承者育成のための支援を行う。	○	◎	◎			R6～R13

※博＝博物館、文＝文化財課、まち＝まちづくり課、観光＝観光振興課

(6) 関連文化財群6 自然と信仰が紡ぐ戸隠の歴史文化

歴史文化 1 歴史文化 2 歴史文化 3

ア 修験道の一大霊場となった戸隠山

標高2,000m級の戸隠山は激しい地殻変動によって約200万年前に海底から隆起をはじめた山で、サメの歯や貝類などの化石が産出する。凝灰角礫岩と砂岩、礫岩の互層からなる山体は風食によって刃先のような稜線、切り立つ断崖、大小の洞窟といった独特の山容をつくりだしており、平安時代に修験道が盛んになると、修行のため修験者が分け入るようになった。⁵



険しい山並みの戸隠山

平安時代末頃には、戸隠は修験道の一大霊場として都でも知られる存在となり、その隆盛ぶりは比叡山や高野山に比肩するほどであった。また、鎌倉時代に古事記や日本書紀に登場する天岩戸を戸隠山とする伝承が広がると、本地垂迹説のもと、天岩戸神話と関わりの深い神々が仏教と習合して祀られるようになった。



戸隠山の切り立った稜線を行く登山者

イ 戸隠講の拡がりや宿坊群・門前町の発展

戦国時代、戸隠山顕光寺は武田信玄と上杉謙信による川中島の戦いに巻き込まれ、衆徒⁶は一時戸隠を離れたが、文禄3(1594)年に上杉景勝の支援によって戸隠へ戻った。江戸時代初めには徳川家康から千石の朱印地が寄進され、顕光寺は信濃を代表する天台宗寺院となり、社殿や社叢、境内、門前の整備が進んだ。また、江戸時代の安定した治世を背景に、水神として信仰された九頭龍権現を母体とする戸隠信仰が広く庶民に浸透し、「戸隠講」が信濃、越後を中心に、北陸、関東の各地につくられた。

⁵ 修験者たちがサメの歯の化石を「鬼の爪」や「龍の牙」などと想像したことが、後の戸隠信仰や鬼女伝説を生み出し、人々を惹きつける素地の一つになったとも考えられる。

⁶ 戸隠山顕光寺に奉仕した僧のこと。それぞれが坊(寺)を構え、その住職を務めた。戸隠山顕光寺には奥院(本院)、中院、宝光院の三院があり、衆徒はいずれかの院に属した。

戸隠講は、顕光寺に仕えた衆徒がそれぞれ檀那場として代々管理し、衆徒は講回りにあわせて祈祷札や種兆（その年の天候・作柄予想）、抜け止め（洪水除け）の木杭、薬丹などを配った。また、講員たちが戸隠へ参拝に訪れた際には、衆徒の院坊に宿泊し、加持祈祷を受けた。そのため、衆徒の院坊は「宿坊」としての役割を担うようになり、中院、宝光院には宿坊群と門前町が発展した。

明治になると政府の神仏分離政策により顕光寺は廃されて戸隠神社となり、戸隠講も一時禁止された。しかし、農業と深く結びついた戸隠講は明治13(1880)年に再興が認可され、農業振興政策とあいまって近世以上に隆盛した。

現在、戸隠中社と宝光社の集落には伝統的な宿坊や民家が多く残るが、それらを維持することができたのも、戸隠講をはじめとする信仰が存続したためと考えられる。



戸隠山と宿坊群・門前町（宝光社地区）



戸隠の宿坊（旧徳善院・極意家）

ウ 信仰とともにつくられてきた戸隠の歴史文化

信仰を背景に成立、発展してきた戸隠には、伝統的な祭礼、食文化、工芸品など、自然と人々の営みが複合した歴史文化が随所に見られる。

戸隠では数え年で7年に一度（丑年と未年）、戸隠神社式年大祭⁷が催行される。1か月あまりの期間中、集落一帯には紙垂の付いた注連縄が張られ、様々な神事が執り行われるとともに、戸隠神社太々神楽や宣澄踊りなどが奉納される。式年大祭のハイライトは渡御の儀と還御の儀で、宝光社祭神を奉戴した神輿（鳳輦）行列が宿坊などの伝統的建造物が建ち並ぶなかを華やかに進み、戸隠信仰のもとに成立、発展をした戸隠特有の歴史を見ることができる。



茅葺き屋根の宿坊と戸隠神社式年大祭の神輿行列



修験道の歴史を伝える柱松神事

⁷ 式年大祭の原型は江戸時代の御開帳にあるとされ、宝光社境内には文化元(1804)年製作の神輿が保存、展示されている。

戸隠への参拝者が歩いた「戸隠道」の終着点が戸隠神社奥社である。戸隠神社奥社参道を進み、随神門ずいしんもんをくぐると、200本を超えるスギの巨樹からなる並木が目飛び込んでくる。この杉並木は400年ほど前に整備が始まった。江戸時代までは参道脇に院坊が建ち並び、その遺構が奥社院坊跡として保存されている。幾代もの人々によって守り伝えられてきた杉並木に沿って多くの参拝者が行き交う光景は、戸隠の信仰の奥深さを象徴している。



戸隠神社奥社参道の杉並木と随神門

標高の高い戸隠では米の栽培が難しく、代わりに蕎麦が古くから食されてきた。現在は多くのそば屋が店を構え、戸隠特有のそば切りである「戸隠そば」を誰しも気軽に楽しむことができるが、江戸時代まではそば餅やそばがきとして食すことが一般的で、手間のかかるそば切りは祭礼や賓客を饗応する席で振舞われた特別なハレの料理であった。そばを折り曲げ丸めるように盛る「ぼっち盛り」も、もとはハレの料理として一口ずつ上品に食すことができるよう工夫されたことに由来すると考えられる。



農業用温水ため池である鏡池

蕎麦をはじめとする農作物は、比較的標高の低い宝光社地区や豊岡地区で主に栽培され、宿坊や門前での消費を支えた。厳しい環境下で農業生産力を高めるため、江戸時代には灌漑用水かんがいや獣害除けのシシ土手が設けられ、戦後には農業用の温水ため池として鏡池や小鳥ヶ池などが整備された。戸隠連峰を背景に蕎麦の花が一面に咲き誇る豊岡地区の風景や、水面に戸隠山が映りこむ幻想的な鏡池の景観は、戸隠の食と農の歴史が作りだした景観といえる。



蕎麦の花が咲き誇る戸隠の農村風景

戸隠の伝統的工芸品に戸隠竹細工たけざいくがある。標高が高く、農作物が十分に収穫できなかった中社地区では、江戸時代から根曲り竹（チシマザサ）を刈り取ることが特別に許され、年貢として納めていたとされる。箕やビク、パイスケといった生活道具のほか、製糸業が隆盛した時期には蚕籠が盛んにつくられ、中社地区の住民の生活を支えた。購買者の多くは、農家を中心とする戸隠講の講員であった。現在はざるざるや椀籠わんかご、コーヒードリッパーなどが土産物として人気で、30名ほどの職人が根曲り竹の伐採から編み上げまですべて手作業で生産している。戸隠そばに欠かせない「そば箕」や



戸隠竹細工の主な製品



そば箕にぼっち盛りで盛られた戸隠そば

新そばの提供を伝える「蕎麦玉」も戸隠竹細工によるもので、営みと結びついた貴重な文化財である。

エ 関連文化財群設定のねらい

戸隠には、戸隠信仰に関わる歴史資料や遺跡、建造物、生活文化、風習が集積するとともに、戸隠信仰を生み出す背景となった自然環境が良好に保全されており、未指定を含む文化財やそれを取り巻く環境についての調査や保存活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

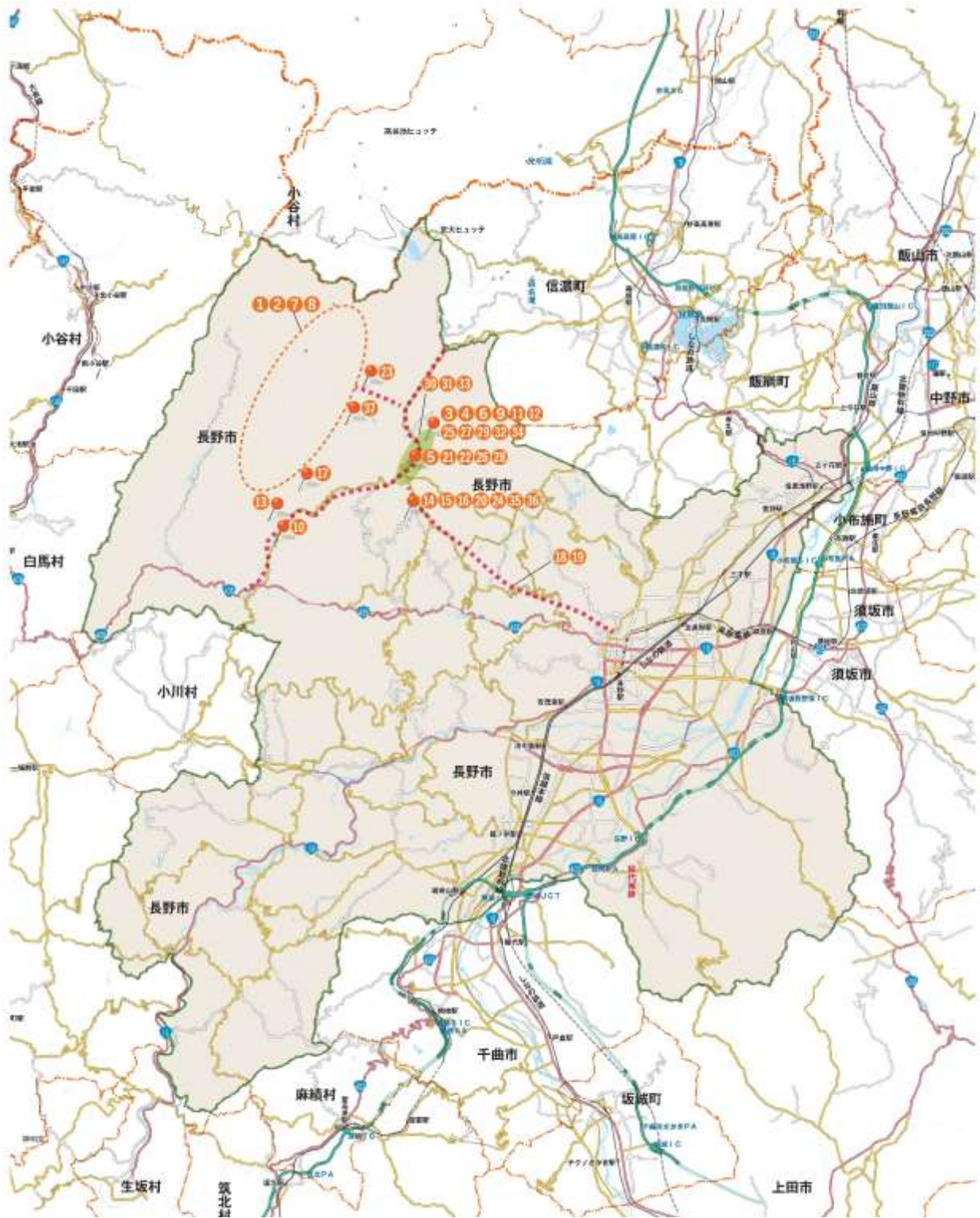
番号	名称	概要	類型	指定等状況
1	戸隠連峰（戸隠表山・裏山）	大きくは、表山（西岳・戸隠山）と裏山（高妻山・乙妻山）に分かれ、あわせて両界山と呼称されて戸隠信仰の中核を成した。	名勝	未指定（妙高戸隠連山国立公園）
2	戸隠一帯から産出する化石群	戸隠では400～200万年前の160種類以上の貝類やサメの歯の化石が発見されており、「戸隠積沢の化石群」が市天然記念物に指定されている。	地質鉱物	市指定天然記念物（一部）
3	牙笏	アフリカゾウの象牙を素材としたもので、正倉院に収められた3枚を含め、類例は全国で5例のみ。奈良時代ものと考えられている。	工芸品	重要文化財
4	紙本墨書法華経残闕	法華経を写経した巻物で4巻が残る。聖徳太子筆と口伝されるが、一説には平安末期の能書家として知られる藤原定信によるものとされる。	書跡・典籍	重要文化財
5	銅製不動明王御正躰	御正躰は懸仏とも呼ばれ、神仏同体思想のもと神社祭神の本地仏を銅板に表し祀ったもの。平安時代末のものと考えられる。	工芸品	県宝
6	戸隠山頭光寺流記并序	長祿2年(1458)に編纂されたとされる戸隠山頭光寺の縁起などに関する文書。現存するものは室町時代中期に法林坊定与が書き写したもの。戸隠信仰の草創期や古代信濃への天台密教の普及の歴史を紐解く上で貴重な資料。	書跡・典籍	県宝
7	戸隠神社信仰遺跡	戸隠神社奥社・中社・宝光社のほか、戦国期に一時避難した筏が峯（小川村）の三院跡も史跡に指定されている。	遺跡	県指定史跡

8	戸隠三十三窟跡	戸隠で修験者が修行の場として使用した洞窟や岩屋で、「西窟」からは平安時代末頃の銅製花瓶・六器が出土した。江戸時代の絵図史料にもその存在が描かれている。	遺跡	未指定
9	武田晴信願状	永禄元年(1558)に武田晴信(信玄)が越後勢の敗北と信濃の支配を願って戸隠山中院に奉納したもの。この翌年、戸隠衆徒は上杉より侵攻を受け、一時離山を余儀なくされた。	古文書	市指定有形文化財
10	戸隠志垣鬼の塚五輪塔	鬼女紅葉の墓と伝えられる五輪塔。戸隠山に住まった女の鬼(紅葉)を朝廷から派遣された平維茂が退治するという伝説が戸隠、鬼無里に残されており、その旧跡の一つ。	建造物	市指定有形文化財
11	中社の納経供養塔	回国修行者が顕光寺に納めた法華経の散逸を防ぐため造られた石塔で、高さ3.9mに及ぶ。もとは中院境内にあったが、廃仏毀釈により現在地に移され、津島社が勧請された。	建造物	市指定有形文化財
12	宣澄踊り	天台、真言両派の法論の末に暗殺されたとされる大先達宣澄阿闍梨を慰めるため、毎年8月16日に宣澄社前で酒を酌み交わしながら踊る。修験道に深く関連した踊りとされる。	無形文化財	市指定無形文化財
13	戸隠福平の宣澄祠	大先達宣澄阿闍梨の出身地に建立された石祠。文明13年(1481)の銘がある。	遺跡	市指定史跡
14	二条の城之内城跡	栗田氏館とも呼ばれる。中世においては戸隠山別当を歴任し、江戸時代では神職として火ノ御子社に仕えた栗田氏が万治元年(1658)に築いたとされる。	遺跡	市指定史跡
15	戸隠原の大頭庵跡	第54代戸隠山別当、慧含の隠居所として宝暦年間に豊岡の人々が建てたと伝わる。史跡内に庵の由来を記した碑文があり、その内容から戸隠豊岡地区における農地開発と別当との関係性がうかがえる。	遺跡	市指定史跡
16	戸隠尾上の慈儉後の石・一実道士の碑	第52代戸隠山別当、乗因の里坊跡と伝わる場所に、乗因が信念とした「慈悲・儉約・自後」から三字を刻んだ自然石と「戸隠別当阿智祝部一実道士」の碑が残る。別当が関わった農地、用水の開発史がうかがえる。	遺跡	市指定史跡

17	戸隠奈良尾弘法遺跡	弘法大師が祀られている奥の院を中心とした洞窟群からなる修験遺跡。天台宗との法論に破れた真言系修験者の隠れ行場との伝承もある。	遺跡	市指定記念物
18	戸隠道	修験者が霊場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて複数の道筋が整備されたと考えられる。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁右も設置されている。山間の流通路としても大きな役割を果たした。	遺跡	未指定（歴史の道百選）
19	町石（丁石）	戸隠参拝の道筋に一町（60間、約109m）ごとに建てられた道標。一ノ鳥居から宝光院へ43町、中院へ53町、中院から奥院へ30町が江戸時代に整備された。	遺跡	市指定史跡
20	諸沢橋供養塔	戸隠豊岡地区から火ノ御子社へ向かう立道沿いの諸沢橋落成の際に安全を祈願して嘉永7年（1854）に建てられた。	遺跡	市指定史跡
21	一ノ午王橋供養塔	一ノ鳥居から祓沢を経て中院へ向かう途中、男鹿沢を渡る石橋（一ノ午王橋）の安全を祈願した供養塔で、文化7年（1810）に建てられた。	遺跡	市指定史跡
22	熊の石塔	一ノ午王橋供養塔の向かい側に建てられた石塔。戸隠における熊野信仰の存在を伝える宝篋印塔との考えもある。	遺跡	未指定
23	戸隠神社奥社社叢	戸隠信仰の歴史とともに自然と人為が融合して形成された。随神門から先、院坊跡が連続する参道沿いには見事な杉並木がみられる。	遺跡	県指定天然記念物
24	豊岡のカツラ	カツラとしては県内最大級。親鸞聖人が戸隠参詣の折に鬼女紅葉旧跡を訪ねて荒倉山へ登った際に杖としていた桂の枝が大樹になったとの伝承が残る。	植物	県指定天然記念物
25	戸隠中社の三本杉	戸隠神社中社大鳥居がある広庭を囲うようにほぼ正三角形に植えられた3本のスギの巨木で、樹齢は800年ともいわれる。若狭国の漁師、「八尾比丘」の伝説が残る。	植物	市指定天然記念物
26	西行ザクラ	火ノ御子社境内にあるオオヤマザクラ。西行法師が戸隠へ訪れた際に戸隠の子供たちに頓智をかけ、逆にやり込	植物	未指定（環境物件）

		められたとの伝承がある。		
27	旧徳善院本堂・庫裏 (極意家神殿・宿坊)	極意家は江戸時代まで徳善院と称した宿坊で、文化12年(1815)に建築された茅葺屋根の旧本堂・庫裏が現存する。戸隠の宿坊建築のなかで二棟型と呼ばれる形式の一典型。	建造物	国登録有形文化財(伝統的建造物)
28	越志家住宅主屋(旧廣善院客殿)・土蔵	越志家は江戸時代まで廣善院と称した宿坊で、寛政6年(1794)に建てられた茅葺屋根の旧客殿が現存する。	建造物	国登録有形文化財(伝統的建造物)
29	戸隠神社太々神楽	江戸時代から伝わる神楽で、天岩戸神話にちなんだ岩戸開きの舞など10座の舞からなる。	無形の民俗文化財	県指定無形民俗文化財
30	長野市戸隠伝統的建造物群保存地区	戸隠信仰を背景に中院・宝光院につくられた宿坊群とその門前町。雪深い風土を反映した軒の深い大きな茅葺屋根をもつ建物が特徴。	伝統的建造物群	国選定重要伝統的建造物群保存地区
31	戸隠神社式年大祭	数えで7年に一度、丑年と未年に執り行われる。宝光社祭神が中社へ渡御し、中社祭神と共に奥社祭神へ7年間の御神業を奉告する神事。その原型は江戸時代の出開帳にあるとされる。	無形の民俗文化財	未指定
32	柱松神事	根曲り竹や雑木で作られた3本の柱松に火をつけ、世情を占う神事。その歴史は鎌倉時代まで遡るとされる。江戸時代末に一度途絶えたが、平成15年の式年大祭を機に復活した。	無形の民俗文化財	未指定
33	戸隠そば	江戸時代、戸隠へ訪れた賓客や戸隠講の人々をもてなすために振舞われたそば切りが発祥。そば切りの技は戸隠山顕光寺の本寺であった上野寛永寺から伝わったとされる。	無形の民俗文化財	未指定(県選択味の文化財)
34	戸隠竹細工	根曲り竹(チシマザサ)を使用して、材料の採取・加工・仕上げまで一貫して一人の職人が手掛ける。江戸時代から代々受け継がれた技術により製作される。	無形の民俗文化財	未指定(県伝統的工芸品)
35	農業用温水ため池群 (鏡池・小鳥が池等)	戸隠の冷たい水を稲作に適した水温まで温めるために戦後造られた人造池。鏡池からは約2km離れた宝光社泡原の水田に、小鳥が池からは約1.5km離れた中社立道の水田に利用される。	名勝	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・戸隠山関連文書群など、未指定文化財の把握、調査が進んでいない。
- ・外部の専門人材等との連携を深めていく必要がある。
- ・戸隠の歴史や文化を伝える文化財を収蔵・展示するための施設が不足している。
- ・文化財を巡るための案内標識や、ガイド等の体制が整っていない。
- ・関連文化財群の計画的な保存整備や防災対策が十分にできていない。
- ・関連文化財群を活かした歴史まちづくり、文化観光を推進する必要がある。
- ・関連文化財群を適正に管理しながら後世へ継承していくための方策が求められる。

方針)

- ・未指定文化財の把握、調査を進める。
- ・外部の専門人材等との連携を積極的に進める。
- ・戸隠の歴史と文化を伝える文化財を収蔵・展示する施設の整備を検討する。
- ・文化観光の推進にむけて、案内標識の設置やガイドの育成・体制づくりを進める。
- ・文化財の保存整備や防災対策を計画的に実施する。
- ・歴史まちづくりの推進にむけて、住民や地域団体との協働を進める。
- ・文化財の適正な管理が維持できるような施策を実施あるいは検討する。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・戸隠竹細工調査の実施	文・博・戸隠	戸隠に伝わる伝統工芸の歴史や技術の把握調査を行う。	◎		◎	○		R6～R9
2 ・戸隠山関連文書の把握調査	文・博	地域住民や有識者と協力して古文書の把握調査を進めていく。	○		◎	○		R6～R13
3 ・観光パンフレットの作成及びガイド人材育成支援	博・観光	戸隠の観光協会と連携して戸隠の歴史文化を伝える観光パンフレットの作成やガイド人材の育成に努める。	◎		◎	○		R6～R9
4 ・文化観光コンテンツの開発を支援する【新】	観光文	戸隠の観光協会と連携して戸隠の歴史文化を体験するコンテンツを開発する。	○		◎			R6～R13
5 ・戸隠神社奥社社叢水路等の整備	文	奥社社叢の保存活用計画に基づいた整備事業を進める。	○	◎				R6～R9
6 ・伝統的建造物群防災対策事業の実施	文・消防	戸隠伝統的建造物群保存地区防災計画に基づいた防災対策事業を実施する。	◎	○	○			R6～R9
7 ・伝統的建造物群保存地区保存事業の推進	文	伝統的建造物群保存地区保存事業（建造物の修理・修景など）を進める。	◎	○	○			R6～R13
8 ・伝統的建造物群の建築基準法適用除外の検討【新】	まち文	伝統的建造物の保存と活用を促進するため、必要に応じて建築基準法適用除外を検討する。	◎	○	○	◎		R6～R9
9 ・茅刈り事業の推進支援	文・まち	戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会が実施している伝統的建造物群の屋根材調達（茅刈り）の取組を支援する。	○		◎			R6～R13
10 ・古民家活用事業の支援	文・観光	空き家（古民家）を活用した宿泊施設等の整備を支援する。	○		◎			R6～R13
11 ・戸隠竹細工技術継承事業の支援	戸隠	戸隠竹細工生産組合等による竹細工の技術継承と後継者育成事業を支援する。	◎	◎	○			R6～R13
12 ・歴史的まちなみ環境整備事業	まち	景観重要建造物への修景補助や無電柱化、道路の美装化を行う。	◎					R6～R13
13 ・文化財保存のための財源確保	戸隠文・まち	ふるさと納税制度による財源の確保を進める。	◎					R6～R13

※文＝文化財課、博＝博物館、戸隠＝戸隠支所、観光＝観光振興課、まち＝まちづくり課

(7) 関連文化財群7 里山の恵みを活かした暮らしと粉食^{こなしよく}

ア 多様な作物・産物と暮らし

長野市では、米だけでなく大麦・小麦・豆・蕎麦・粟^{あわ}・稗^{ひえ}・黍^{きび}といった様々な作物が作られていた。こうした作物を組み合わせることで、人々の生活を支えていた。

また、山間地では炭焼きなどの山の恵みを活かした産物や藍^{ろうぞ}・楮^{こうぞ}・麻などを作り、和紙・麻布・畳糸・蚊帳地などを生産していた。特に市域の西部中山間地域を含む西山地方と呼ばれる地域では和紙や麻が主力な作物だった。麻がもたらした富により、鬼無里では精緻な彫刻を施した屋台や神楽屋台が造られた。

近代の長野県は「養蚕王国」と言われ、長野市でも多くの家が養蚕製糸業に関わっていた。昭和恐慌を機に生糸の価格が暴落するなどして養蚕が下火になった後には、桑畑を果樹園に転換した家が多くあった。そのため、りんごや桃などの果樹栽培が盛んとなり、現在も長野市の主要な産物となるとともに、美しい景観を形成している。



繭かき作業の様子（中条）



鬼無里の屋台

イ 食文化

長野市の自然環境と生産生業を背景に、特徴的な食文化が育まれてきた。特に、粉食文化はかつての日常的食事、行事食として根付いていた。

小麦を使った粉食としては、日常的には、だんご汁、ひんのべなどを食べ、来客時などにはおぶっこなどのメンルイ⁸がふるまわれていた。かつてはこうした小麦の粉食を、朝に炊いた米がなくなる夕食に食べるが多かった。また、せんべい、うすやきなど、水で小麦を溶いたものに野菜を入れる、あるいはうすく焼いた生地⁸に具を挟んだ食べ物は、オコビレ（間食・軽食）として食べられていた。



西山地域のおやき

⁸ メンルイは、粉食の内、麺状のものである。麺の幅や厚さ、汁や具を変えると呼び名が変わった。

盆などの行事にはおやきが食べられていた。おやきは基本的に中力粉を水で練ったもので野菜の餡を包み、蒸す・焼くなどしたものであるが、その製法は様々で、長野市内でも様々なタイプのおやきがある。

粉食ではないがエゴグサと呼ばれる海藻を煮凝りにしたエゴも西山地域の特徴的な行事食である。また、米粉を使ったものとしては、小正月のまゆだま、月遅れの涅槃会ねはんえにおけるやしょうまなどがある。これらの儀礼食は現在も行事において作られ、親しまれている。



にらせんべい



おぶっこ・ひんのべ



やしょうま

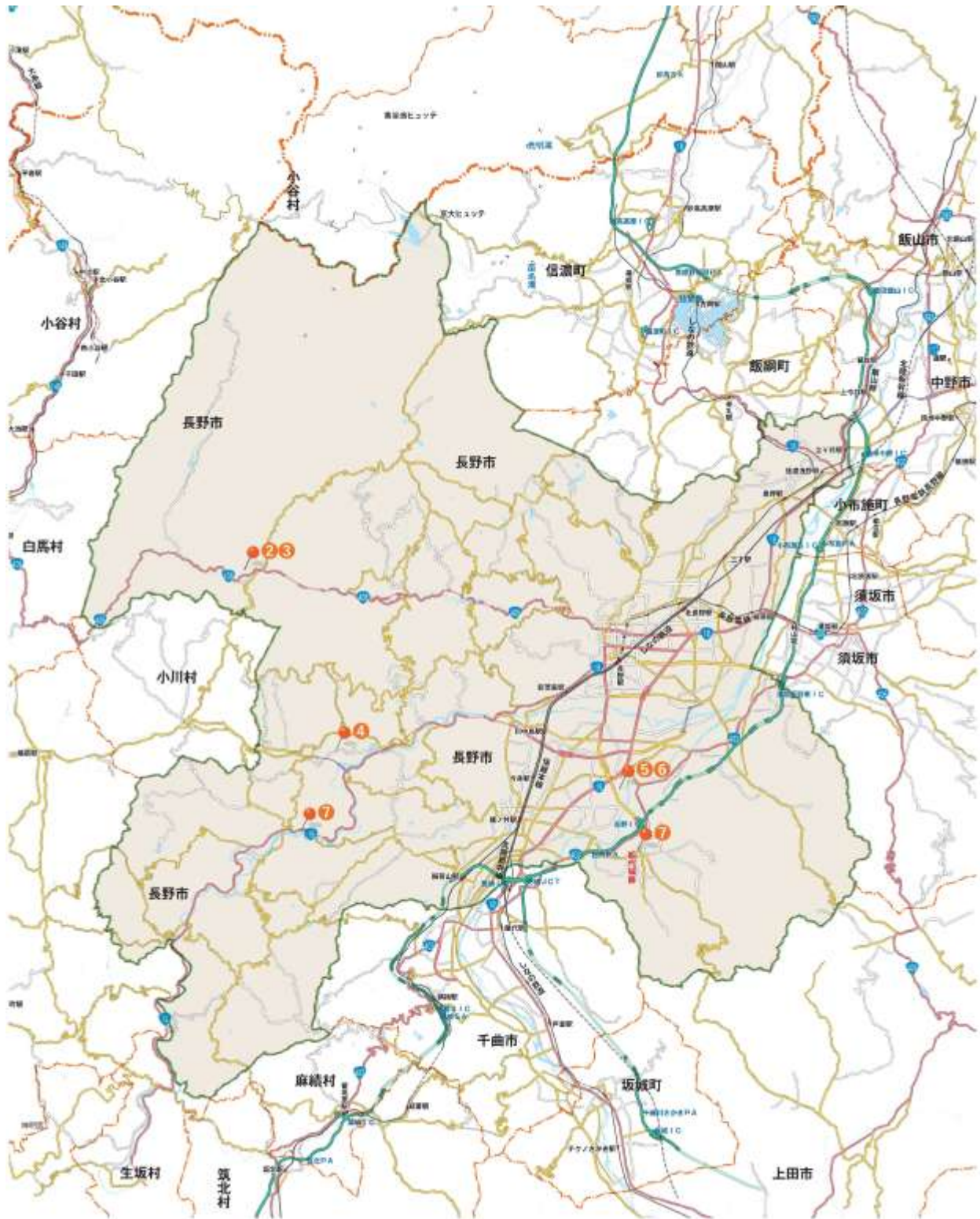
ウ 関連文化財群設定のねらい

現在の本市を成り立たせてきたかつての主産業と、その変遷を示す文化財（民具）の魅力を高め、その保存と活用を積極的に図ること。また長野市を代表する食文化の振興を図るため今回の関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定等状況
1	おやきをはじめとする粉食文化	おやきやおぶっこ、せんべいなどの現代まで残る粉食。	無形の民俗文化財	未指定
2	鬼無里の屋台・神楽屋台	江戸末から近代に作られた。祭礼で曳き出される屋台や神楽屋台。	有形の民俗文化財	市指定有形文化財
3	鬼無里の麻・畳糸作り道具	近世から近代の鬼無里の畳糸生産にかかわる資料群。	有形の民俗文化財	未指定
4	中条の麻作り道具	近世から近代の中条の麻作りにかかわる資料群。中条市民交流センター展示収蔵室蔵。	有形の民俗文化財	未指定
5	長野盆地の生産生業資料	長野市域で使われた生産生業にかかわる資料群。長野市立博物館及び付属施設蔵。	有形の民俗文化財	未指定
6	須田紙店資料	長野市東町にあった紙屋の資料。	有形の民俗文化財	未指定
7	長野市内の景観を描いた絵画群	近世から現代に描かれた絵画作品。真田宝物館及び信州新町美術館の収蔵品等。	絵画	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・中山間地域の収蔵施設には当該地の生産生業資料が、利用されないまま保管されている。
- ・中山間地の生産生業資料は多く残されているが、それを使用していた当時の人たちの暮らし振りについては、ほとんど知られていない。

方針)

- ・中山間地域の収蔵施設に残る生産生業資料を、博物館収蔵資料全体の中に位置づけて保存・活用していく。
- ・中山間地の生産生業資料から当該地の当時の人々の暮らし振りを伝える取組を進めていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措 置	担 当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・生産生業資料のコレクション化に向けての研究	博	生産生業資料のコレクション化のための研究を進める。	◎			○		R6～R13
2 ・生産生業資料をテーマとした展示公開事業	博	博物館展示で生産生業資料の公開を進める。	◎					R6～R13
3 ・昔の暮らしを伝えるボランティアの育成	博	博物館昔体験ボランティアの育成を進める。	◎		○			R6～R13
4 ・鬼無里の屋台の魅力発信	博	鬼無里ふるさと資料館に収蔵する祭屋台の魅力を、当時の暮らし振りに関わらせながらSNS等を通じて情報発信していく。	◎		○			R6～R13

※博＝博物館

(8) 関連文化財群8 川と共に生きる 一千曲川水系と暮らし

ア 川のめぐみと脅威

長野市は千曲川の中流域にあたり、犀川・裾花川といった大きな支流が千曲川に流れ込む地形上にある。そのため、河川の氾濫による水害を経験しながらも、氾濫によって豊かな土壌が育てられてきた。盆地を流れる水を活用するために、鐘鑄堰をはじめとする多くの用水網が発達した。

盆地に流れ込む河川は扇状地を形成し、現在は扇状地の水はけの良さや気温差を利用した果樹栽培が盛んである。川の脅威にさらされながらも川のめぐみを活かした暮らしが営まれてきたといえる。



上空から見た千曲川

イ 川のめぐみ ー豊かな土壌と千曲川中流域の漁撈ー

昭和 14(1939)年、飯山市と野沢温泉村の境に水力発電用の西大滝ダムが造られるまではサケやマスが遡上してきたため、大型のアミ、ヤナを使った漁場が設置され、漁撈が行われていた。安茂里・川中島・芹田・大豆島では犀川において、篠ノ井・松代・長沼などでは千曲川においてウケ・アミ・ヤス等を使った漁撈が行われていた。豊野は千曲川に浅川・鳥居川が流れ込む場所にあるため、急流で行われる漁撈と緩流で行われる漁撈の両方が見られた。コイやウグイが多く採られ、篠ノ井や若穂ではつけば漁が行われていた。

大河川だけでなく、小さな河川や用水において小魚を採ることも盛んで、昭和初期までは水田養魚が行われていた。専門の川漁師は少なかったものの、一般的な人々は日常的な漁で魚を取り、貴重なたんぱく源としていた。



ヨツデアミと釣り



筥

現在、長野市内では漁撈はほとんど行われなくなったが、かつて使われていた道具や鮭漁にかかわる古文書などが残り、博物館に収蔵されている。かつての川のめぐみについて考えることができる貴重な資料である。

ウ 水害

河川が多く流れ込んでいる長野市は、度々水害に襲われてきた。特に、寛保2(1742)年の洪水は「戊の満水」と呼ばれ、大きな被害を出した水害として知られている。こうした過去の災害の様相を示す古文書や絵画が残る。

度重なる水害から人々を守るため、治水事業が行われてきた。千曲川・犀川・裾花川ではダムが整備され、河川沿いには堤防が整備されてきた。犀川と千曲川が合流する地点にあたる若穂の牛島では、集落を取り囲むように築かれた輪中堤防の跡を見ることができる。また、被害があった場所では記念碑や供養塔が建てられ、各地に水防を祈願した水神が祀られている。

水害と戦ってきた歴史のなかで防災対策が取られてきたが、水害は防ぎきれず、令和元(2019)年東日本台風においても甚大な水害が発生した。この災害を教訓とした防災活動や、被災文化財の保全活動が現在も行われている。



妙笑寺千曲川洪水水位標（複製）

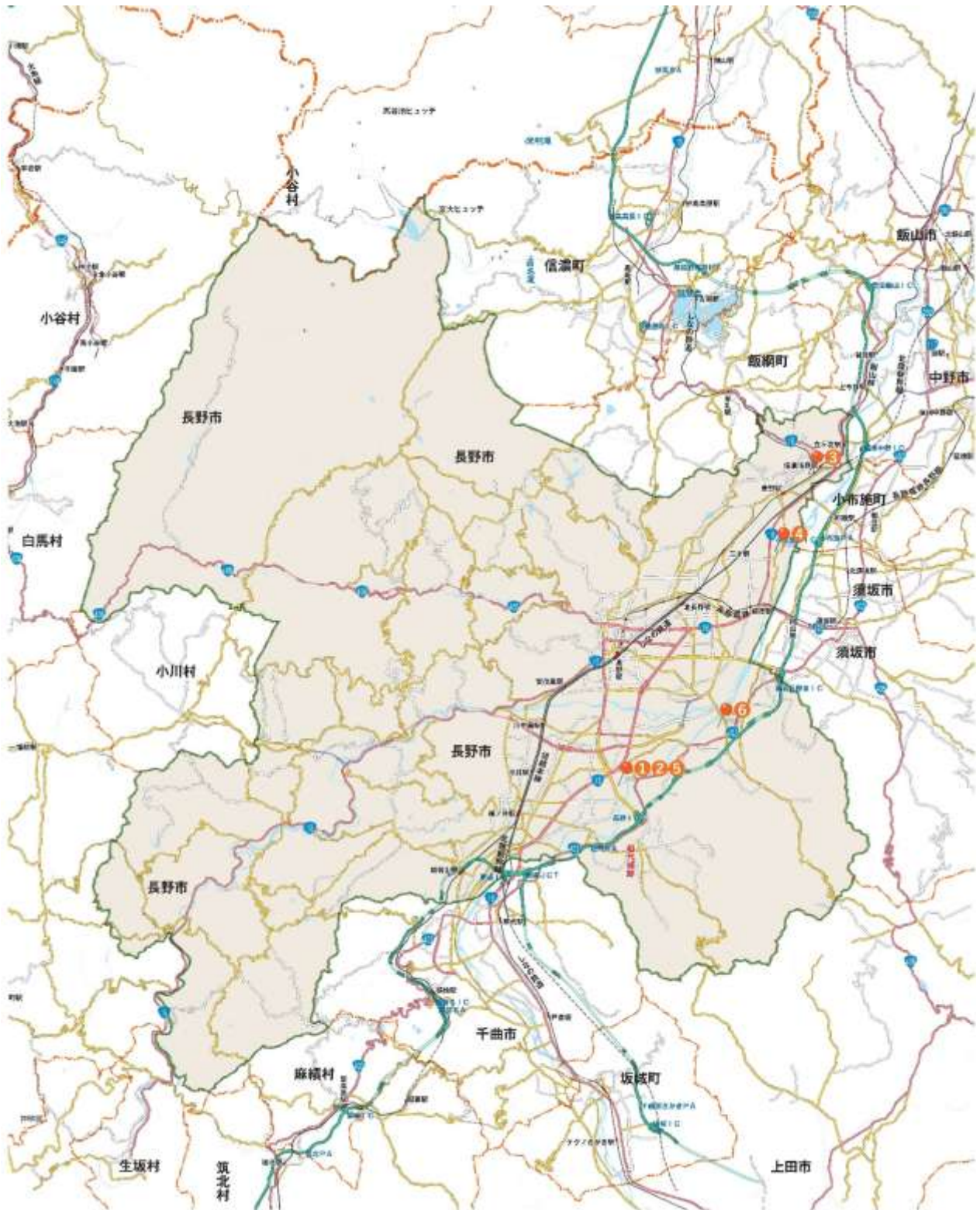
エ 関連文化財群設定のねらい

長野盆地を形成し、長野市の人々の暮らしと深いつながりのある千曲川がもたらしてきた恵みと災いについての普及啓発と、それを物語る文化財の保存や活用に向けた取組を進めていく。

構成文化財一覧

番号	名称	備考	類型	指定等状況
1	千曲川流域の漁具	犀川・千曲川沿いの漁撈にかかわる近現代資料。	有形の民俗文化財	未指定
2	大豆島区有文書	近世に行われた鮭漁にかかわる古文書。	古文書	市指定有形文化財
3	果樹栽培関係資料	近現代に行われた果樹栽培にかかわる資料群。長野市立博物館附属施設蔵。	有形の民俗文化財	未指定
4	妙笑寺千曲川洪水水位標	妙笑寺（長沼）が水害の際に浸水した水の高さを記録したもの。複製が長野市立博物館常設展にて展示されている。	有形の民俗文化財	未指定
5	令和元年東日本台風被災資料	令和元年東日本台風において被災した資料群。松代・長沼・豊野等の古文書・絵画など。	絵画、彫刻、書跡・典籍、古文書	未指定
6	千曲川水系の治水土木遺産	輪中堤防（若穂）・霞堤などをはじめとした、長野市域の治水のための土木遺産。	有形の民俗文化財	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題

課題)

- ・漁撈は行われなくなってから時間がかなり経過しているため、資料の収集が困難となっている。
- ・漁撈が行われなくなって久しい現在において、これまで収集してきた資料はかつての漁撈の様子を伝える貴重な文化財であるため、劣化をさせずに後世に伝える必要がある。
- ・現在行っている水害をはじめとした被災文化財の保全を、市民で持続的に行うための環境整備が必要である。

方針)

- ・千曲川水系の漁撈文化を後世に伝えるために、これまで収集されてきた資料についての追加調査を行う。
- ・収集した資料の劣化を防ぐため収蔵環境が常に適正であるように収蔵設備を整備していく。
- ・市民と協働して被災文化財保全活動を進めていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1	・漁撈資料の調査と収集	博	博物館収蔵漁具類の補足調査及び収蔵漁具の補足的位置づけ資料の受け入れを進める。	◎				R6～R13
2	・漁撈資料の展示公開	博	博物館展示での漁撈資料の利活用を進める	◎				R6～R13
3	・博物館収蔵施設整備【新】	博	博物館収蔵庫空調等の設備の整備を進める	◎				R10～R13
4	・文化財保全活動体制の整備	博	歴史資料ネットワーク等の外部組織との連携や、博物館の文化財保全ボランティアとの協働による保全活動体制を整備する。	◎		○	○	R6～R13

※博 = 博物館

(9)関連文化財群9 長野市に伝わる多様な祭礼・行事

ア 多様な行事・祭り

市域の暮らしが多様なように、この地域で育まれた文化も多様なものがある。暮らしの節目節目で行われる民俗行事や祭りもその例に漏れない。例えば指定を受けている民俗行事や祭りに限っても、獅子神楽や甚句・踊りといった民俗芸能、道祖神信仰と関わって行われる小正月行事、夏を前に行われる虫送り、秋の収穫を祝って行われる煙火大会、かつて人々の楽しみの場として機能していた庚申講こうしんこうなど多岐にわたっている。そのなかで長野市を特徴づける民俗行事・祭りとして、獅子舞、煙火、御柱祭、そして道祖神と関わって行われる小正月行事を挙げることができる。

イ 獅子舞

市域の民俗芸能のなかで、現在最も盛んに行われているのが獅子舞である。平成7(1995)年に、長野県教育委員会が行った民俗芸能緊急調査の報告では、県内で最も獅子舞の伝承数が多いのが長野市であり、その数は73か所を数える。町村合併後の市域拡大を経た平成30(2018)年に市文化芸術課が行った詳細な調査では、活動している獅子舞の保存団体は256にも上ることが判明した。まさに獅子舞は長野市を代表する民俗芸能といえる。

ウ 長野の空を彩る煙火えんか

毎年11月20日の西宮神社にしのみやじんじやのえびす講に合わせ打ち上げられるえびす講花火に代表されるように、長野市では神社祭礼や地域行事に伴って花火が打ち上げられるところが多い。市域の花火は江戸時代、神社祭礼の奉納煙火から始まった。現在も秋祭りに煙火が奉納される安茂里地区の犀川神社には、文政7(1824)年に煙火を奉納した記録が残されている。また、第一地区新諏訪町の諏訪神社の秋祭りに奉



犀川神社の杜煙火（安茂里地区）

納される瓜割煙火うりわりはなびは天保7(1836)年、疫病除けのため奉納したのが始まりとされている。明治時代になると花火製造が許可制となり、多くの神社で奉納煙火が姿を消すなかで、犀川神社の杜煙火はなびや諏訪神社の瓜割煙火（いずれも県指定文化財）は、製造許可を得て現在でも氏子が煙火を奉納している。このような素地のもと、明治以降市域には煙火業者が複数生まれ、明治後半から定着したえびす講煙火大会の発展と相まってその技術を磨いていった。現在でも共に大正5(1916)年創業の紅屋青木煙火店と信州煙火工業が打ち上げ花火を製造している。

エ 御柱祭おんぼしらい

市域には、7年に一度、寅とらと申の年の春もしくは秋に御柱祭を行う諏訪神社が60社以上みられる。これらは、近世後期以降に祭礼風流として御柱祭が各地に広がり、発展したものである。善

光寺町や松代町などには、近世末の御柱祭の様子が描かれた絵馬や巻物が残されており、当時の町場の賑やかな祭礼の様子を伝えている。



まんえん
万延元(1860)年の御柱祭行列図大絵馬
(第二地区 武井神社蔵)

オ 道祖神信仰と関わって行われる小正月行事

道祖神といえば安曇野市が有名だが、長野市でもどんど焼きに付随して、厄除け・縁結びなどを願い、多様な形の道祖神祭りが継承されている。道祖神は集落の守り神として信仰され、江戸時代の旧村単位ごとに祀られている。集落の入り口や中央に「道祖神」と刻まれた文字碑や、男女が仲睦まじく並んでいる姿の石仏が祀られている風景は、この地域ではごく普通の景色である。

盆地の西部中山間地では子どもたちが道祖神を持って各家を回る「セーノカミの勸進^{かんじん}」行事や、道祖神碑の前に松やヌルデの枝で作った人形道祖神を供える行事が行われている。

人形道祖神は東部中山間地でも縁結びを願ってヌルデ製のものが道祖神碑に供えられる。同じ人形道祖神でも篠ノ井地区には巨大な藁人形^{わら}を作ってどんど焼きの時に燃やす長谷及び越のドンドヤキ（県指定無形民俗文化財）がみられ、大岡地区でも道祖神の石碑に各家のしめ飾りを用いて巨大な道祖神の顔を作る^{あしのじり}芦ノ尻の道祖神祭り（県指定無形民俗文化財）が行われる。

道祖神祭りの対象となる石碑も、神名を刻んだ文字碑、双体道祖神碑、男根の形をした陽石、五輪塔の空輪、繭型石（ノジュール）など、多様性に富んでいる。

伝統行事の多くが姿を消していくなか、どんど焼きに付随した市内の道祖神の行事は多様性に富んだ姿で継承されているが、近年の少子高齢化や新型コロナウイルスの影響で縮小・中止を余儀なくされているところもみられる。



双体道祖神碑（戸隠地区）



セーノカミの勸進（戸隠地区）

カ その他の行事・祭礼

市域では仏教的色彩を残した年中行事が比較的に残されている。8月22日、23日頃に行われる地蔵盆もその一つで、子どもたちが地蔵の前でお数珠回しをしたり、地蔵に化粧を施したりする。このほか春のお彼岸にお数珠回しをした後に藁人形を地区境に建てて魔除けにする大岡のセードーボーや、11月、お数珠回しをした後、子どもたちに団子を投げて配る「団子投げ」など

も特徴的である。

キ 関連文化財群設定のねらい

本計画期間では、市域に展開される多様な祭礼・行事のなかから、市域を特徴づける獅子舞や道祖神行事といった民俗文化財が後世まで継承されるよう、その実態を把握するとともに、情報の発信を通じその魅力を多くの人々に伝える取組を進めていく。

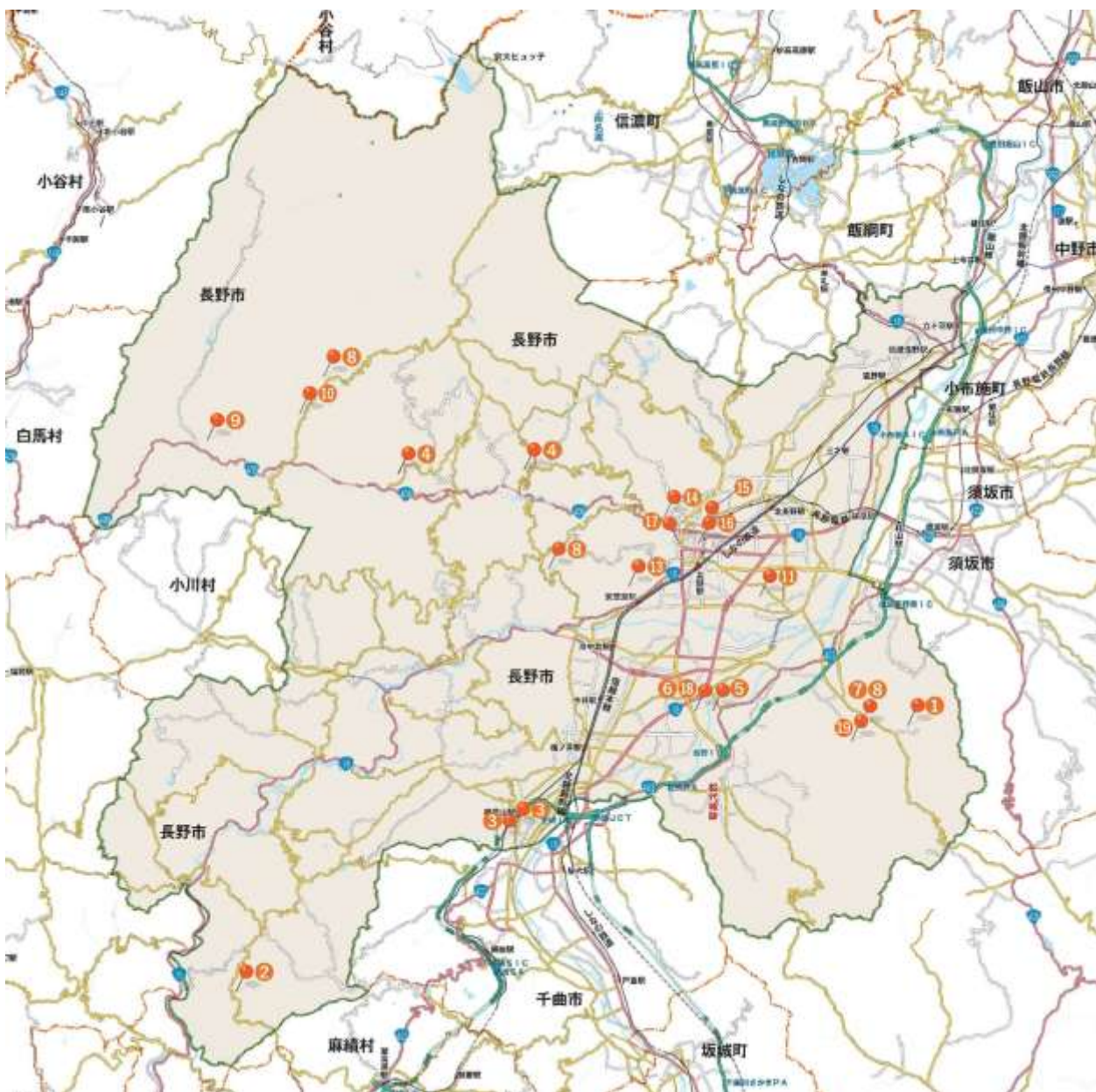
構成文化財一覧

番号	名称	概要	類型	指定等
1	高岡の <small>あずきや</small> 小豆焼き行事	若穂地区保科高岡区で正月 15 日に行う年占行事。	無形の民俗文化財	国選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
2	芦ノ尻の道祖神祭り	大岡地区芦ノ尻組で正月 7 日に行う。集落外から来る災いを防ぐため、しめ縄を使って道祖神碑に巨大な顔を作る。	無形の民俗文化財	県指定無形民俗文化財
3	長谷及び越のドンドヤキ	篠ノ井地区平、越、東谷集落で行われるドンドヤキ。平ではオンマラサマと呼ぶ藁人形、越ではオスガタと呼ぶ巨大な藁人形、東谷ではヨメ・ムコと呼ぶ男女一対の人形を作り、ドンドヤキで燃やす。	無形の民俗文化財	県指定無形民俗文化財
4	サイノカミの勸進行事	正月 15 日の早朝、子どもたちが道祖神のご神体を持ち、各家を回る行事。戸隠・芋井地区の集落で行われている。	無形の民俗文化財	未指定
5	柴のオンベ	松代地区柴集落で行われる小正月の行事。約 2 m の木の枝の先端にテルテルボーズの顔を作って挿し、枝には神札をぶら下げたオンベを数人が持って、各家を祝って廻り、最後はドンドヤキの巻き立てのてっぺんに刺して一緒に燃やす。	無形の民俗文化財	未指定
6	小正月関係資料コレクション	繭玉やツクリモノ、人形道祖神など、県内で行われていた小正月行事に使用された道具類を博物館が収集した	有形の民俗文化財	県指定有形民俗文化財

		もの。		
7	保科道祖神碑	若穂地区保科の双体道祖神碑。天文3(1534)年の銘が刻まれている。	有形の民俗文化財	市指定有形民俗文化財
8	人形道祖神	小田切・若穂・鬼無里・豊野地区などで小正月の時に作られ、道祖神碑に祀られる木製の道祖神人形。	有形の民俗文化財	未指定
9	繭玉形道祖神碑	鬼無里地区の集落で祀られている繭の形をした道祖神の石碑。土尻川沿いの崖から産出するノジュールを道祖神として祀っている。	有形の民俗文化財	未指定
10	空輪道祖神	鬼無里地区の集落で祀られている道祖神石碑の一種。五輪塔の空輪部分を道祖神として祀っている。	有形の民俗文化財	未指定
11	風間神社太々神楽獅子舞	大豆島地区風間神社の獅子舞。伊勢代神楽獅子舞の系統で文政5(1822)年より継続される勇壮な雄獅子の舞。	無形の民俗文化財	市選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
12	獅子神楽	市域では集落の組単位で獅子舞を持っているところが多い。	無形の民俗文化財	未指定
13	犀川神社の杜煙火	文政7(1824)年、それまで日吉神社と呼ばれていた犀川神社が、現在の神社名への変更が認められたことを記念して始められたとされる。	無形の民俗文化財	県指定無形民俗文化財
14	瓜割煙火	第一地区新諏訪町の諏訪神社秋祭りに奉納される煙火。天保7(1836)年に疫病が流行した際に疫病除けとして始められたと伝わる。	無形の民俗文化財	市選択無形民俗文化財
15	えびす講煙火	第二地区岩石町の西宮神社で11月20日に行われるエビス講に合わせ開催される、市内最大規模の煙火大会。現在は11月23日に行われている。	無形の民俗文化財	未指定
16	御柱祭行列図大絵馬	第二地区東町の武井神社に万延元(1860)年に奉納された絵馬。その年に行われた御柱祭の様子が細かに描かれている。	絵画	市指定有形文化財
17	御柱祭行列図大絵馬	第四地区妻科神社にある嘉永7(1854)年の御柱祭の様子を描いた絵馬。	絵画	未指定

18	文政十三年松代御柱祭行列覚	文政 13(1830)年に行われた松代町 ^{ほおり} 祝神社の御柱祭の様子を描いた横丁形式の覚帳。	絵画	未指定
19	赤野田神社太神楽	若穂地区赤野田神社の獅子舞。伊勢代神楽獅子舞の系統。周辺地域の獅子舞の多くは、赤野田神社太神楽の若衆から伝授されたとの伝承を持っている。	無形の民俗文化財	市選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・現在も行われている多様な祭りや行事のうち、指定されているもの以外については、現状を把握していないものが多い。
- ・地域住民の認知が薄れ行事参加の人数も少なくなっている祭りや行事が多くみられ、その廃絶が危ぶまれる。
- ・市内の多様な祭りや行事について、その存在が広く周知されていない。

方針)

- ・文献調査等で得られた市内の民俗行事や祭礼の現状を把握していく。
- ・伝承が危ぶまれている行事や技術の担い手育成を支援すると同時に、記録映像を取ることで保存していく。
- ・情報発信を強化しそれぞれの文化財の認知度を高めていく。
- ・道祖神行事のように、市域の特徴ある民俗文化財を積極的に情報発信していく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・行事・祭礼把握調査の実施【新】	文	市内の民俗行事・祭礼の現状把握調査を、地元の研究団体等と連携しながら行っていく。	◎		○	○		R6～R13
2 ・伝統芸能継承支援事業	文芸	伝統芸能団体の活動や用具の修理等に対し支援を行う。	◎		○			R6～R13
3 ・行事、祭礼の映像記録化事業	文	市内の行事・祭礼の映像記録化を進める。	◎	○		○		R6～R13
4 ・行事、祭礼の情報発信【新】	文	記録した行事・祭礼の映像や、主要な民俗行事・祭りの祭礼日カレンダー等を作成し、Web上で公開する。	◎	○	○			R6～R13
5 ・行事、祭礼の担い手育成支援【新】	文	地域で行事や祭礼の手順や技術を継承するための手引書等を作成する際に、記録化した映像等を提供するなど、担い手育成を図る地域や団体の活動を支援する。	◎					R6～R13
6 ・市域の特徴ある祭礼行事の情報発信【新】	文・観光	市内道祖神行事案内マップ等を作成する。	◎		○		○	R6～R13

※文＝文化財課、文芸＝文化芸術課、観光＝観光振興課